女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報

ウィメンズ ブックス

New15号　2004年11月25日

ウィメンズブックストア　ゆう　〒540-0008　大阪市中央区大手前１丁目3番49号　ドーンセンター１Ｆ

目　次

新刊ピック・アップ　新刊本の中でも特にお薦めの本をご紹介しています ……（１）
著者インタビュー『ジェンダーで読む日本政治　歴史と政策』の著者　進藤久美子さんに聞く ……（２）
最新刊情報　新刊本を解説付きでご紹介しています ……（３）
ミニコミ・ミニコミ　ウィメンズ ブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です ……(18)
HOT・FILE　会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください ……(19)
ウィメンズブックストア　TOP10（8・9・10月）……(20)
Women's Booksからの風　『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです ……(20)

（本誌内で紹介している価格には、消費税５％が含まれています）

新刊ピック・アップ

『女たちの戦争責任』

岡野幸江　北田幸恵　長谷川啓　渡邉澄子　共編
東京堂出版　2004年9月　2625円

20世紀前半の15年戦争期における女性たちの「戦争責任」を問う本である。前半では、女性政治家、活動家、地域指導者たちを、後半では与謝野晶子、林芙美子、岡本かの子などの女性作家たちをとりあげ、その言説や行動が人々に与えた影響を探る。

共通するのは、「母性」「無私」「(慈) 愛」といった「女性的」な言葉が、どうしようもなく無自覚なまま、「軍事化」の波にのみこまれ、「軍事化」の言葉として使われていくということ。要するに「軍事化」は、日常生活の中から湧き出るジェンダー化された言説を通して、生み出されていくのである。

なぜなのか。大越愛子は、本書「天皇制イデオロギーと大東亜共栄国―「帝国のフェミニズム」を問う」の中で、近代国家を前提として女性の地位向上をめざした第一期フェミニズムは、国家それ自体の帝国主義を不問に付し、「帝国フェミニズム」の道を必然としてとらざるをえなかったからであると、第一期フェミニズムに内在する構造の問題を説く。そして、戦争終了後も天皇制の戦争責任を不問に付した日本社会の中で、‘母性’を‘平和主義’にシフトしていった女性たちの責任を問うのである。

日本では今、「戦時体制」が整ったとされている。それとともに、個人の自律を弱め「男らしさ、女らしさ」を強調しようとする言説が強まり、憲法24条の改正までが論議されている。こうした状況は、何を意味するのか。現代に生きる私たちが問われているといえよう。

（も）

『住まいと家族をめぐる物語 ―男の家、女の家、性別のない部屋』

西川祐子　集英社新書　2004年10月　735円

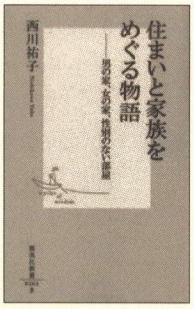
このサブタイトルは、なかなか魅力的で目を引く。家父長がすべてを取り仕切った「男の家」、不在の男に替わって主婦が管理するようになった「女の家」、そして家族のそれぞれが個別で性別のない「部屋」。

それは、いろり端のある家であったり、茶の間のある家であったり、リビングのある家だったりするわけだが、常にジェンダーと深く関っていることに気付かされる。

家族の形態と、生活に密着した住まいの移り代わりを検証していく中で、日本の「近代家族と居住」ということと「国家」との関係もあかされる。

これからの住まいは、家族は、どう推移するのだろうか。ジェンダー論の授業を学生たちの感想も交えながら公開していく形をとっていて、読みやすく、最後まで興味をそらさない構成だ。

（な）



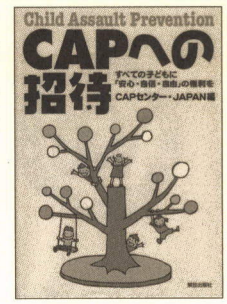
（参考『近代国家と家族モデル―日本型近代家族の場合』(西川祐子、吉川弘文館　2000年刊)

『CAPへの招待　すべての子どもに「安心・自信・自由」の権利を』

CAPセンター・JAPAN編
解放出版社　2004年10月　1890円

CAP（キャップ）とは、「Child Assault Prevention：子どもへの暴力防止」の頭文字をとったもの。日本では約10年の歴史をもつ、子どものエンパワーメントプログラムのことである。

CAPは子どもを、「小さな大人」だとはみなさない。むしろ、その年齢に応じて自律した、「安心・自信・自由」の権利をもった主体だと考える。おとなは、先に生まれた人間として、子どもが本来もっている力を引き出し、勇気づけることにより子どもが自らをエンパワメントする手助けをするのである。「知らない人についていってはダメだよ」の代わりに、CAPでは、「もし、怖い目にあったら、思いきり叫ぼう」というような具体的対処方法を、子どもたちに伝授する。



「ダメ」ではなく、「こうしたら…？」「これができる…」と呈示するCAPのアプローチは、こどもたちだけでなく、私たち大人をもエンパワメントするアプローチであることに、読者はすぐ気づくであろう。　（も）

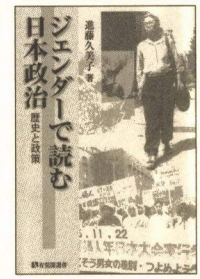
『ジェンダーで読む日本政治　歴史と政策』

進藤久美子著　有斐閣選書　2004年10月　2320円

女性が政治に参画し、ジェンダーの視点を政治に組み入れたとき、政治は変わるのか。変わるとしたら、どう変わるのか。そして日本でその変化は、どういう形をとるのか…「女性と政治」を考えるとき、基本中の基本論点となるこうしたテーマに正面から切り込んでいるのが、本書である。

テーマにせまるため著者は、三つの仮説を立てる：女性たちの政治参画は、従来の利権配分型権力政治を共生型政治へと組み替える契機となるのではないか。そしてその際、フェミニズムの価値観が、女性の政治参画と共生の政治様式の原点となるのではないか。と同時に「日本における女性と政治」は、集団主義の保守的文化を持つ政治風土の中で、日本独自の表象をもつのではないか。こうした三つの仮説を、著者は、戦前から戦後にいたる「女性と政治」の歴史検証と、今日の日本におけるジェンダー・ポリティックスの具体的諸相を分析することによって証明する。

仮説を証明していく過程にみえる著者のまなざしは、制度的再構築を模索する現在の日本社会の変貌に、女性たちの政治参画がしっかり絡んでほしいという願いに満ちている。著者は、ジェンダーの平等と公正を志向する女性たちの政治活動の中に、利権配分型権力政治からの脱皮の潜在的可能性を見出し、それを高く評価するのである。



「国家フェミニズム」がゆれをみせている今、政治のあり方は心底重要である。是非読んでいただきたい一冊である。（も）

著者インタビュー　第15回
『ジェンダーで読む日本政治　歴史と政策』の著者
進藤久美子さんに聞く

（東洋英和女学院大学教員）

——：フェミニスト的視座と生活者の視座の両方から日本の女性の政治参画の歴史にせまっている点が、とても整理されていて納得できます。

進藤：アメリカのジェンダー・ポリティックスの研究をずっとやってきたのですが、いつかは日本の女性と政治の問題に帰っていきたい、アメリカとの比較もしてみたいと考えていました。生身のテーマですから、実証的に考える必要があります。そこで、市川房枝をはじめとする日本の女性の政治参画の歴史や男女共同参画型社会への政策的模索、草の根の政治改革運動などをみていくことにより、ジェンダー共生への道筋を示そうと考えました。

——：アメリカの女性の政治参画との比較の中から、日本のジェンダー・ポリティックスが浮かびあがったということですか。

進藤：はい。女性の政治参画を検証するとき、二つの点を視野に入れなければいけないと思います。ひとつは、グローバルに展開するフェミニズムの高揚ですが、いまひとつは、歴史的に形成されたその国、地域固有の政治文化です。やはり人権意識の非常に強い欧米の政治文化と、人権意識の希薄な日本の集団主義的政治文化とでは、そこから生まれる女性の政治参画のあり方は異なってきます。

——：「女性」とともに「生活者の視点」を前面に出すことは、ジェンダーにまつわる役割分業を温存することになるのではないかという指摘がありますが。

進藤：治安維持法のもとでの戦前の女性参政権運動を見ると、アメリカのそれとは段違いに厳しい状況にあったことがわかります。そういう中で、市川房枝などの女性たちは、政治浄化を模索し、生活者の視座からの政策課題を提示していったわけです。こうした先行の女性たちの運動が、第二波フェミニズムの影響を受ける現在のジェンダー・ポリティックスにも根付いているのが、「女性と政治」をめぐる日本の特徴です。それ自体は、高く評価されていいと思います。

——：今の女性の政治参画へのうねりは、もう後戻りはしないだろうと…

進藤：そうですね。日本のような保守的政治文化をもつ国であればあるほど障害も大きく、その動きは紆余曲折を経ると思います。今のバックラッシュ状況はまさしくそれでしょう。しかし、個別の検討は必要にしても、女性たちは、既存の男性的政治への同化ではなく、ジェンダー複眼的な視点で政治を組み替えようとしています。これを持続していったら、新しい政治文化形成の可能性が出てくると考えています。

（聞き手：森屋裕子）

★最新刊情報★

フェミニズム・女性学……（3）
労働・仕事……（4）
法律・政治・政策……（4）
家庭・家族・衣食住……（5）
子育て・教育……（6）
こころ・癒し……（8）
からだ……（8）
セクシュアリティ……（9）
セクハラ・暴力……（9）
文学・エッセイ・芸術……（10）
女性史・歴史……（14）
自伝・評伝……（14）
高齢・福祉……（15）
メディア……（16）
平和・開発・エコロジー……（16）
資料……（17）
雑誌……（17）

〔フェミニズム・女性学〕

『有森裕子と読む人口問題ガイドブック　知っておきたい世界のこと、からだのこと』

有森裕子　国際人口基金東京事務所編著
国際開発ジャーナル社　2004年7月　1260円

国連人口基金の親善大使であるマラソンランナー有森裕子と国際人口基金東京事務所長の対談。

『今、なぜジェンダー法学か　ジェンダーと法　No１』

ジェンダー法学会編　日本加除出版（株）　2004年7月 3150円

2003年12月、日本にもジェンダー法学会が登場。遅れているといわれていた法学の分野にも、ようやくジェンダーの視点からの研究分野が開かれつつあることが認識された。
学会誌創刊号である本書には、「日本におけるジェンダー法学」「ジェンダー法学教育」「女性差別撤廃条約」の３つの柱からの力作が並んでいる。

『〈癒し〉としての差別　ヒト社会の身体と関係の社会学』

八木晃介著　批評社　2004年9月　3360円

差別は差別する側にとって、〈癒し〉の効果をもつことをケースワークで検証。

『産む産まないは女の権利か　フェミニズムとリベラリズム』

山根純佳著
勁草書房　2004年8月　2520円

中絶の権利は、母体だけにあるのか。胎児の権利は発生しないのか。両者を両立させる道はあるのか。フェミニズム、リベラリズムの議論の特徴を浮かびあがらせ、その差異を明らかに。

『〈女〉なんていないと想像してごらん　倫理と昇華』

ジョアン・コプチェク著　鈴木英明　中山徹　村山敏勝訳
河出書房新社　2004年7月　3675円

『改訂版　21世紀のジェンダー論』

池内靖子　二宮周平　姫岡とし子著
晃洋書房　2004年7月　2520円

「ジェンダー論」入門書。ジェンダー・イメージについて、映画のストーリーを例にわかりやすく解説。

『ことばは届くか　～韓日フェミニスト往復書簡』

上野千鶴子　趙韓惠浄著　佐々木典子　金賛鎬訳
岩波書店　2004年7月　2100円

韓国と日本を代表する気鋭のフェミニスト学者の往復書簡。二人とも1948年生まれ。文字どおりの同時代人である。60年代から70年代に至る学生時代、その後の社会の急激ともいえる変化。その未来。ふたつの社会の違いとつながり。最高知に属する二人のやりとりは、かなりクールでかつ友情に満ち溢れている。特に二人と同世代のみなさまに、お勧め。

『ジェンダー・セクシュアリティと法　法哲学年報2003』

日本法哲学会編　有斐閣　2004年10月　3990円

一見中立的と見られてきた法哲学の理論や方法論にもジェンダーバイヤスが潜んでいるという認識から、2003年の日本法哲学会では、「ジェンダー、セクシュアリティと法」を統一テーマに掲げた。大川正彦、堀口悦子など。

『ジェンダーと歴史学　増補新版』

ジョーン・W・スコット著　荻野美穂訳
平凡社　2004年10月　1995円

70年代以降の女性史研究の成果と女性史が直面している困難についての分析、それに対する著者の対案を軸に、歴史学、労働史、女、男、差異と平等というテーマにジェンダーの視点からメスを入れた。今回の増補新版には、ジェンダー再考が加筆され、充実したものになっている。

『ジェンダーの心理学〔改訂版〕　「男女の思いこみ」を科学する』

青野篤子　森永康子　土肥伊都子著
ミネルヴァ書房　2004年10月　2100円

女性らしく、男性らしくの思いこみはどこから発生したのか？何をもたらしてきたのか？社会心理学の立場から1つ1つをときほどき、自分らしさを手に入れよう。

『ジェンダー問題と学術研究』

原ひろ子　蓮見音彦　池内了　柏木惠子編
ドメス出版　2004年8月　2205円

女性研究者の研究環境改善問題を中心に、男女共同参画社会実現のための課題をさまざまな角度から検討。

『性愛と資本主義』

大澤真幸著　青土社　2004年10月　1995円

はっきりいってムズカシイ。しかし、勢いとテンポのある文章にひきこまれる。「愛」と「資本」という別次元と思われるテーマをつなぎあわせ、論ずると、こうなる。

『男女共同参画社会へ』

坂東眞理子著　勁草書房　2004年9月　2520円

日本の男女共同参画の政策を推し進めてきた著者が、その実態と険しい道のり、手ごたえ、今後の課題を明らかにした。フェモクラット（フェミニスト行政官）だった著者が書く、日本の「男女共同参画」。

『働く女性の都市空間』

由井義通著　古今書院　2004年10月　2940円

都市空間のジェンダー化に関する地理的研究をまとめた。アンケート、グループインタ

ビューで、都市に住む既婚・未婚の「働く女性」の多様な生活の実態が明らかに。

『美学とジェンダー　女性の旅行記と美の言説』
エリザベス・A・ボールズ著　長野順子訳
ありな書房　2004年8月　5040円
18世紀から19世紀初頭にかけて、イギリス女性作家の一群は、男性の視点からしか書かれていなかった美学の言説をわがものにしようと苦闘したそうだ。その美的まなざしが、近代的な「感性」や国家意識を形成する上でどのような役割を果たしたのかを、旅行記を通して読み解く。

『ファンタジーとジェンダー』
高橋準著　青弓社　2004年7月　1680円

「ファンタジーには女の人が出てこない。出てきてもステレオタイプ」と知人が言ったのをきっかけに、ファンタジーの中のジェンダーを探った。批判ではなく、物語に書かれている女性像の意味を多角的に理解しようとする試みが新しい。

『フェミニズムで探る軍事化と国際政治』
シンシア・エンロー著　秋林こずえ訳
御茶の水書房　2004年9月　1575円
シンシア・エンローが2003年1月から3月までお茶の水女子大学ジェンダー研究センターの客員教授として滞在していた間に日本のフェミニストに与えた影響は大きい。その間、お茶の水女子大学で行った夜間セミナーの内容が、講演録として出版された。著者が注目するのは、日常生活を'フェミニスト的好奇心'でながめたときの国際社会における軍事化との関係である。世界的に軍事化が加速している今こそ、私たちは、日常生活のなかでの諸相に敏感に切り込んでいかなくてはならないのではないかと、改めて考えさせられる。

『理科離れしているのは誰か　全国中学生調査のジェンダー分析』
村松泰子編著　河野銀子　中澤智惠他共著
日本評論社　2004年10月　2310円

子どもたちの「理科離れ」が社会的問題になっているが、その議論や取り組みには、ジェンダーの視点が弱いという。なぜ子どもたちは理科が嫌いなのか、本当に女子の方が男子より「理科嫌い」なのか。興味深い調査結果が呈示されている。

『〈恋愛結婚〉は何をもたらしたか　性道徳と優生思想の百年間』
加藤秀一著　筑摩書房　2004年8月　756円
一夫一婦制・恋愛結婚と国家との関係に注視すると、よい国家を築くため、人間の優生学的な選別と排除が国家により押し進められてきたことがわかる。

〔労働・仕事〕

『インテリアコーディネーターの仕事がわかる本　改訂第2版』
法学書院編集部著　法学書院　2004年7月　1470円

『〔改訂・新版〕子どもをケアする仕事がしたい！　現場の本音を聞いて資格と仕事を選ぶ本』
斉藤弘子編著　彩流社　2004年10月　1680円

『知っていますか？パワー・ハラスメント一問一答　職場のいじめ』
金子雅臣著　解放出版社　2004年10月　1050円
パワーハラスメント（職場のいじめ）が増加中とのこと。

『社労士の仕事がわかる本　改訂第2版』
武市淳　宮澤真由美著　法学書院　2004年7月　1470円

『先輩からのアドバイス　こんなとき、あんなとき』
(財)21世紀職業財団著（財)21世紀職業財団　2004年6月 1365円
「このまま会社にいても、先がみえない」と悩んでいる女性たちに向けた、「こんなふうにしてきた」「こうだった」という先輩からのアドバイス。

『男女協働の職場づくり　シリーズ〈女・あすに生きる〉⑳』
渡辺峻　中村艶子著　ミネルヴァ書房　2004年8月　2940円

『年収1/2時代の再就職　中公新書ラクレ141』
野口やよい著　中央公論新社　2004年7月　798円
主婦の再就職は、夫の収入が減ったから。再就職をした妻たち、派遣社員・パート・自営などにインタビューし、その実態を明らかに。

『働き方を見直しませんか　人間らしい生き方を創るために』
西村直樹著　学習の友社　2004年7月　1300円
労働時間短縮に取り組む労働組合活動家の著者が、過去の経験や歴史に基づき働き方を考えた。

『パートタイム労働　法律相談Q&A』
(財)21世紀職業財団著（財)21世紀職業財団　2004年7月 1050円

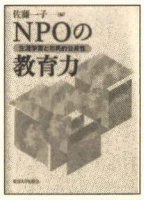
『ホームヘルプ労働の自立と未来』
櫻井和代著　本の泉社　2004年8月　1400円
現役ホームヘルパーが、事例をもとに、ヘルパー・利用者の輝く未来を考えた。見切り発車した介護保険制度はまだまだ未熟。

『辞めることから始めよう』
笠原真澄著　幻冬舎文庫　2004年5月　480円
働く女性の9割が「辞めたい」と思っているという。100人の働く女性にアンケートをとり、その実態を探り、仕事と自分の距離感を見つめ直した。自分らしく働くヒントが満載。

『労働法とジェンダー　双書ジェンダー分析7』
浅倉むつ子著
勁草書房　2004年9月　3675円

労働法をジェンダーの視点で分析。平等社会で男女が共存して働くために越えなければいけない壁は多い。その1つ1つを丁寧に検証。新労働法構築の道を示した。

〔法律・政治・政策〕

『NPOの教育力　生涯学習の市民的公共性』
佐藤一子編
東京大学出版会　2004年6月　3570円


NPOが生涯学習社会においてどのような役割をはたし、市民活動の担い手となる人材養成・活用をおこなっていくのかを、分析・考察。

『くらしの法律相談14　改訂版　子どもの人権をまもる知識とQ&A』
山田由紀子著　法学書院　2004年8月　2100円

『講座・福祉社会11　福祉の市場化をみる眼　資本主義メカニズムとの整合性』
渋谷博史　平岡公一編著
ミネルヴァ書房　2004年10月　3675円
資本主義の発展に伴って形成された現在の福祉国家・福祉社会と、そこに内在する市場論理とのかかわりについて多角的に分析・考察したもの。編著者は、この論文を小・中・高の学生に読んでほしいと、あとがきに記している。そこに緊迫した問題が山積していることを感じる。

『こんな私が県議です 長野県議会日誌』
北山早苗著　郷土出版社　2004年9月　1680円
主婦兼CG作家が県議になった道のりと、県議をしていて感じたことを素直に書いた。庶民パワーをどこまで発揮できるか。

『自分で調べる技術　市民のための調査入門』
宮内泰介著　岩波書店　2004年7月　777円
調査するのは偉い人だけと思っていませんか？何か疑問を感じたら調べてみたくなるもの。その情報収集法・まとめ方から説得できるプレゼンまでを大公開。行動することが大切。

『自分でつくる理想の年金 これで安心！女性のセカンドライフ』
石津史子　和泉昭子共著　法学書院　2004年7月　1260円
セカンドライフを豊かにするために、自分に合った計画の立て方を紹介。金融情報が詳しくわかりやすい。

『市民がつくるくらしのセーフティネット 信頼と安心のコミュニティをめざして』
川口清史　大沢真理編著　日本評論社　2004年10月　2520円
新しいセーフティネットとして期待される市民によるコミュニティについて、その必要性・可能性・課題を多角的に分析。

『女性天皇論　象徴天皇制とニッポンの未来』
中野正志著　朝日新聞社　2004年9月　1365円
多数の文献から、男系男子継承の根拠となる「万世一系説」や「女帝『中継ぎ』説」を洗い直し解説。「皇室の危機」に迫り、現実的解決策（？）を導く。まずは読んでみてから。

『女性をめぐる法と政策　シリーズ〈女・あすに生きる〉⑰』
高橋保著
ミネルヴァ書房　2004年10月　3675円
暴力・ストーカー・結婚・相続・雇用・育児・介護・セクハラなど、女性に関わる法律を体系化し、やさしく解説。

『生活経営学』
奥村美代子　赤星礼子著
（財）九州大学出版会　2004年8月　2520円
環境保全とジェンダーフリーの視点を基礎に、「よりよい生活」のあり方を、家族や個人の生活に視点をおいて考察。

『日本人と少子化　日本社会を解読する④』
日本社会・文化研究会監修　清水浩昭編
人間の科学新社　2004年7月　2100円
少子化に関する問題を、思想・経済学・若者の意識など10の側面から、多角的に分析。少子化の今後の展開を探った。

『年金、もっと知りたいな。 女性に贈るみわ子さんの年金絵本』
菅野美和子文　高橋秀樹絵
ビーケイシー　2004年9月　1470円

『良心的「日の丸・君が代」拒否　教育現場での強制・大量処分と抗命義務』
「日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会
「日の丸・君が代」不当解雇撤回を求める被解雇者の会著
明石書店　2004年7月　1680円
2003年、東京都教育委員会は、学校行事で国旗掲示・国歌斉唱についての実施指針を出した。それに対して、約250人の教職員が異義申立てを敢行。その中の50人が、各人それぞれの動機をつづっている。

〔家庭・家族・衣食住〕

『親子関係のゆくえ』
有賀美和子　篠目清美　東京女子大学女性学研究所著
勁草書房　2004年9月　2520円
少子化・長寿化により、近年の女性の生き方や家族・親子関係は大きく変わってきている。従来の家族がこの変化にいかに不適合であるかを検証し、新しい家族関係や未来像を考えた。

『家族の幻影　アメリカ映画・文芸作品にみる家族論』
伊藤淑子著　大正大学出版会　2004年5月　2205円
フェミニズムのスタンスからアメリカ映画・文学作品を分析してきた著者が、作品の中で家族がどのように表現され、家族のイメージはいかに構築されたかを探った。

『現代家族のアジェンダ　親子関係を考える』
井上眞理子編　世界思想社　2004年10月　1680円
親子の関係を晩婚・子育て支援・少子化・生殖医療・離婚・虐待・食行動・教育など、さまざまな分野から検証。親子関係の問題点が浮き彫りに。

『「51C」家族を容れるハコの戦後と現在』
鈴木成文　上野千鶴子　山本理顕　布野修司　五十嵐太郎
山本喜美恵著　平凡社　2004年10月　1890円
「51C」とは、1951年に計画された公営住宅標準設計C型の通称。一般的には、マンションのチラシ等に書かれている“nLDK”の原型であり、“ダイニングキッチン”の産みの親だとされている。が、これは51Cの設計者から言わせると違うらしい。社会学者と建築家の異業種交流シンポから生まれたこの本には、戦後から今に至る家族論、住居論が、新鮮な切り口で満載されている。企画の面白さが十分に味わえる一冊だ。

『父親と家族［新装版］父性を問う』
比較家族史学会監修　黒柳晴夫　山本正和　若尾祐司編
早稲田大学出版部　2004年9月　3990円
父親を歴史・近隣諸国の父親像から検証。類人猿にも「父子」関係があったという。

『妻の恋　たとえ不倫と呼ばれても』
大畑太郎　川上澄江著　アストラ　2004年7月　1575円
「夫以外の人に恋をした妻たち」を3年にわたって取材。彼女らの気軽さとさみしさは痛々しい。

『定年夫は、なぜこんなに「じゃま」なのか？「大量定年時代」の夫婦学』
西田小夜子著
ソニー・マガジンズ　2004年7月　1260円

結婚してウン十年。定年夫が毎日家にいることとなった。ずっと一緒にいることで見えてくる諸々の大問題をわかりやすく小説仕立てで検証。サラリと読んだら楽しい本。

『母と子でみるA39家族を創る　アジアの子たちの里親として』
花崎みさを著　草の根出版会　2004年7月　2310円
著者は、虐待・放置・親の行方不明や病気で親と一緒に住めない子どもの施設と、DVなどで行き場を失くしたアジア女性を助ける施設の館長。アジアと日本の子どもが偏見なく助け合っていこうという著者の原点をふり返った。

『夫婦の氏を考える』
井戸田博史著　世界思想社　2004年9月　1680円
夫婦の氏のあり方について、歴史・習俗・政策・家族観・男女平等・個人尊重などあらゆる角度で考察。

『変貌するアジアの家族　比較・文化・ジェンダー』
山中美由紀編　昭和堂　2004年3月　3150円
急速に変貌するアジア地域（日本・韓国・中国・タイ・インドネシア）の家族を、そこに暮らす人々の日常生活や意識を通して理解しようと試みた。アジアといっても実に多様。その多様性の中にアジアの未来が見えるのかもしれない。

『法律と税金のプロがていねいにアドバイス　安心して離婚するためのすすめ方と手続き　財産の分け方、養育費、慰謝料、相談費用、離婚後の年金・保険』
浦岡由美子　掛川義夫監修
成美堂出版　2004年10月　1260円

『離婚・内縁解消の法律相談　新青林法律相談8』
山之内三紀子編　青林書院　2004年7月　4725円

『離婚の日からどう生きるか　心を癒し、自由になるための19のケア・ステップ』
ブルース・フィッシャー　ロバート・アルベルティ著
藤野邦夫　中島美和訳　実業之日本社　2004年7月　1470円
別れを伴う離婚の心の痛みから立ち直り、生まれ変わるためのレッスンをやさしくといた。

『離婚を考える人のための法律知識』
深井麻里　梅原ゆかり編著
同文館出版　2004年10月　1680円

『離婚を乗り越える　離婚家庭への支援をめざして』
小田切紀子著　ブレーン出版　2004年9月　1890円
離婚家庭の親と子どもへの支援の在り方を心理学的観点から研究。多くの事例から、立ち直り方・援助の形が学べる。

〔子育て・教育〕

『育児戦略の社会学　育児雑誌の変容と再生産』
天童睦子著　世界思想社　2004年9月　1995円
子育て問題を育児雑誌で読み解き、育児雑誌の興隆・内容の変化を注目し、育児状況の移り変わり、社会との関わりについて考察。

『「育児不安」を消すために』
石戸谷尚子著　悠飛社　2004年9月　1260円

『イラスト版　子どものお手伝い　子どもとマスターする49の生活技術』
子どもの生活科学研究会編　谷田貝公昭＋村越晃監修
合同出版　2004年11月　1680円
子どものお手伝いの効果、上手なすすめ方をイラストで解説。始めどきが肝心のよう。

『FLC子育てナビ⑧　小学生の子育て』
村本邦子　津村薫著　三学出版　2004年7月　1000円
小学生を持つ親に贈る子育て本。子どものよさを伸ばす子育て術を紹介。

『FLC子育てナビ⑨　離婚と子育て』
村本邦子　窪田容子著　三学出版　2004年7月　1000円
どのような親の態度が、親の離婚を経験した子どもにとって有益か。1つ1つ細かくアドバイス。

『オランダの教育　多様性が一人ひとりの子供を育てる』
リヒテルズ直子著　平凡社　2004年9月　1680円
夫の故郷オランダで2人の子どもを学校に通わせることになった著者がみたオランダの教育法。校区がない、各学校の特色は全く異なるなど、日本とは全く違う。その違いにとまどいながらも、オランダ教育のすばらしさを実体験から示す。

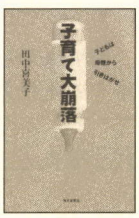
『国際線スチュワーデス空飛ぶママ　試行錯誤の子育てファイル』
石坂いずみ著　文芸社　2004年8月　1575円
働くママの子育て奮闘記。

『「心のノート」の方へは行かない』
岩川直樹　船橋一男編著　子どもの未来社　2004年7月　840円
2年前、全小中学生に道徳教育のために配られた「心のノート」。執筆者不明、教科書でも副読本でもないので検定、採択なし、しかし莫大な税金が使われている。「この本は何？」を考察した。

『「個性」を煽られる子どもたち　親密圏の変容を考える』
土井隆義著　岩波書店　2004年9月　504円

少年犯罪・いじめ・コミュニケーション・自我などを題材に、社会的に形成される「個性」を批判的に検討。「本当の個性」とは？

『子育て大崩落　子どもは母親から引きはがせ』
田中喜美子著　毎日新聞社　2004年10月　1400円



現在の子ども中心の育児では、子ども自身の「生きる力」が育たないと著者。その問題点を具体例を挙げ説明し、正しい育児を提唱。親も楽になれる育児法。

『子育てと自分さがしが出会う場所 イライラの根っこに、しあわせのとびらがある』
萩原光著　主婦の友社　2004年10月　1365円

『子育ての、そばにいる人はだれ？　育児支援の明日のために』
吉永陽一郎著　メディカ出版　2004年9月　2100円
日本初の育児なんでも相談外来医師である著者が、それぞれの親子にアドバイスしてきた10年の記録。

『〈子育て法〉革命　親の主体性をとりもどす』
品田知美著　中央公論新社　2004年9月　777円
子ども中心の子育てが、親と子どちらもダメにしているという。その根拠を実体験・社会学の視点で語る。親主体の子育てのほうが断然魅力的。

『子どもが育つ魔法の言葉 for the Family』
ドロシー・ロー・ノルト著　平野卿子訳
PHP研究所　2004年10月　924円
子ども・お母さん・お父さんが、心豊かに生きるために書かれた育児ヒント書。

『子どもの生活と保育施設』
小川信子著　彰国社　2004年7月　2310円
40年以上保育所の居住の研究・設計計画をしてきた著者が、何に基づき保育所を設計してきたのかを説く。

『子どもへの責任　日本社会と保育の未来　保育の教室②』
加藤繁美著　ひとなる書房　2004年6月　1680円
経済と保育・政治と保育の視点で変化を分析。子どもを社会で育てていくために、理想と現実の融合点を探る。

『汐見流育児法　心も身体も　ほんとうにかしこい子に育てる』
汐見稔幸著　主婦の友社　2004年8月　1365円
ここでいう「かしこさ」とは、自立心・感性・他者とのコミュニケーション能力があるということ。0〜3歳児が「かしこさ」を身につけるための考え方を指南。2歳児は2kmの散歩が目安など具体的。

『次世代育成と公民館　ヌエック・ブックレット2　これからの家庭教育・子育て支援をすすめるために』
独立行政法人　国立女性教育会館編
独立行政法人国立印刷局　2004年7月　501円
子育てで孤独を感じている人が多いという。社会全体でバックアップするために、公民館利用やサークル活動の方法をガイドした。

『シリーズ少子化社会の子ども家庭福祉3　子どもの福祉と養護内容　施設における実践をどうすすめるか』
浅倉恵一　峰島厚編著　ミネルヴァ書房　2004年10月　2520円
養護実践の基礎的考え方・子どもの課題に即した実践・職員の実践力を高めるの3つのテーマから、児童養護・療育を考える。即戦力として使える内容。

『新版おとなの目を気にする子どもたち』
細井啓子著　ブレーン出版　2004年7月　1995円
母親と子ども・父親と子ども・子どもと周囲の人々。そのどれもがおだやかで、やすらぎの関係であることが望ましい。その関係を築くために臨床心理士が、過去に起こった事例を取りあげ、問題点・修復法を指南。

『世界の女性名言事典　未来を切りひらく希望のことば』
PHP研究所編　PHP研究所　2004年10月　2940円
政治家・芸術家などさまざまな分野の女性の心に残った言葉を集めた。子ども向けであるが、大人も楽しめ、好奇心をあおる。

『祖父母学のすすめ』
石井弘一著　ディーディーエヌ発売
新生出版発行　2004年7月　1050円
孫や子どもたちとよい関係を結ぶために知っておきたいことをわかりやすく丁寧にまとめた1冊。

『楽しむアメリカン育児』
早見優著　集英社　2004年5月　650円

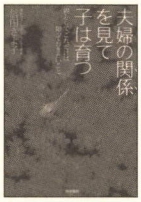
『地域で親子をどう支えるか 発達相談を通して見えて来るもの』
静岡発達科学研究会編　三学出版　2004年5月　1890円
発達心理学の専門家たちが、25年間の乳幼児健康診断を通して取り組んだ成果を発表。子ども・親・コミュニティ・支援など、親子を見守る体制をどう整えてきたか。これからの多様な広がりに対応する地域作りを考える。

『なにがはじまるの？　かわりはじめる　からだの本。』
ピーター・メイル著　谷川俊太郎　みむらみちこ訳
河出書房新社　2004年9月　1680円
思春期に起きる体の変化について、わかりやすく絵本で案内。

『はたらくママの必ず片づく魔法の4ステップ 家事&子育てと仕事を両立して自分の時間をつくる方法』
デビー・ウィリアムズ著　保科京子訳
オークラ出版　2004年5月　1400円
魔法のテクニックをわかりやすく解説。

『パパがアホでも、子は育つ　酔いどれ広告マンの育児休暇奮闘記』
鷹村アツシ著　長崎出版　2004年10月　1260円
会社で初めての男性の長期育児休暇を取った著者。おちゃらけな父ちゃんが、愛情たっぷりとうちゃんに変身するまで。

『夫婦の「関係」を見て子は育つ　親として、これだけは知っておきたいこと』
信田さよ子著　梧桐書院　2004年8月　1365円



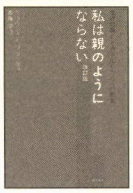
多くのカウンセリングを通して、親はどうあればいいのか、どんな親が望ましいかがわかったと著者。夫婦・親子関係の難しさを実感している人に読んでほしい、心の持ち方改善本。

『目からウロコの「男の子」育て　新装改訂版・お母さんのオチンチン育て』
五味常明著　ハート出版　2004年9月　1365円
男の子の幼児期から高校生までの性の成長に、父・母はどのように向き合えばいいのかを心療内科医が語る。男の子のたわいない性の悩みにズバっと答えられる知識がつく。

『メグさんの男の子のからだとこころQ&A』
メグ・ヒックリング著　三輪妙子訳
築地書館　2004年9月　1470円

性教育の大切さを広く一般に広めた著者が、男の子からきかれた体と心の疑問に簡潔に答えたQ&A集。

『「よい子」の悲劇』
富田富士也著　河出書房新社　2004年9月　1575円
「よい子」「よい人」ほど、傷つくことを恐れ、自分の感情を押し殺し、感情を抑圧し、そして、大噴火するという。「よい子」の作られ方がよくわかる。

『私は親のようにならない 改訂版 嗜癖問題とその子どもたちへの影響』
クラウディア・ブラック著　斎藤学監訳
誠信書房　2004年7月　2310円


アルコール依存症など、嗜癖問題を抱えた家族の中で育つと、子どもは数々のトラウマを抱えることが多い。その事例を紹介し、トラウマからの脱却・回復のためのヒントを細かく紹介。

〔こころ・癒し〕

『大人はわかってくれない カウンセリングに通う少女たち 知恵の森文庫』
梶原千遠著　光文社　2004年9月　650円
カウンセリングに通ってくる4人の女の子との会話を収録。

『9日間で自分が変わるフォトセラピー』
石原眞澄著　リヨン社　2004年4月　1470円
写真を撮ることで自己回復した体験を心理学で裏づけた表現療法「フォトセラピー」。絵や音楽より手軽で身近な写真で自分らしさを見つけられるという。1度トライしてみたくなった。

『元気になるメンタルケアの実践』
川西由美子著　ダイヤモンド社　2004年5月　1470円
企業内で発生するストレスの対処法を紹介。

『自傷　葛藤を〈生きる力〉へ』
川田文子著　筑摩書房　2004年7月　1680円
摂食障害・ウツ・ひきこもり・自虐などを経験した6人の「少女」にインタビュー。苦悶の末に少しずつ見えてくる光に希望が持てる。

『自分でできる対人関係療法』
水島広子著　創元社　2004年8月　1365円

効果が実証されている精神療法「対人関係療法」の考え方・解決法でストレスのもとを断つコツを紹介。

『女性ライフサイクル研究　第14号』
女性ライフサイクル研究所著　三学出版　2004年11月　1050円
特集は「戦争とトラウマ」

『悩んでないで、やってみる　人間関係がうまくいく55の習慣』
中山庸子著　筑摩書房　2004年7月　1260円
朝起きて、会社に行って、寝るまで。あらゆるシーンで自分と周りの人々が心地よく過ごすための習慣を案内。

『病んだ家族からの旅立ち　アダルトチルドレンの克服と回復を目指して』
ジョン・ブラッドショウ著　米岡清四郎訳
川島書店　2004年8月　2940円
著者の幼児期の心的外傷の体験を基に、アダルトチルドレンの状態から、本当の自己をいかに回復したかを細かいステップで繰り返し説明。

『恋愛不安　「大人になりきれない心」が欲しがるもの』
香山リカ著　講談社　2004年10月　1365円
恋愛していても、していなくても不安になるのはなぜか。

〔からだ〕

『アンチ・エイジングのための女性ホルモン・クリニック　これからの肌・からだ・心のケア』
山王直子著　メタモル出版　2004年10月　1365円
ホルモンバランスが崩れると何が起きるのか、どういう対応をすればよりよくつき合っていけるのかなどを、わかりやすくまとめた。ホルモン補充療法Q&Aつき。

『産んでよかった！「高齢出産」』
大葉ナナコ著　祥伝社　2004年7月　1470円
高齢出産が増えているが、不安も。その不安を1つ1つ取りのぞき、出産に前向きになれる。

『高齢出産ドンとこい!!』
藤田素子著　ぶんか社　2004年10月　1050円
43歳で結婚、44歳で初出産をしたマンガ家の赤裸々出産体験マンガ。高齢出産のいいところ・悪いところ、全部見れます。

『これってヘン？　女の子のからだの悩み解決100』

赤枝恒雄著　しょういん　2004年10月　924円
街角で若い女性の性感染症や性相談を受ける産婦人科医が、生理・おりもの・おっぱいetc. の素朴なからだの悩みに答えた。

『授かる　不妊治療と子どもをもつこと』
堤治著　朝日新聞社　2004年10月　1785円
生殖医療の現状と問題点を患者との対話形式でわかりやすく解説。不妊治療にまつわる素朴な疑問に答え、出生前治療などの最前線治療を説明する。

『女性にやさしい病院ガイド』
対馬ルリ子監修　日本テレビ放送網株式会社　2004年10月　1500円

『女性の生き方を変える更年期完全ガイド　心身の健康から、ホルモン療法、ダイエットまで』
クリスティアン・ノースロップ著　片山陽子訳
創元社　2004年9月　3990円
東洋・西洋医学に精通する産婦人科医が、自らの経験を踏まえ、更年期障害との共存の仕方を指南。

『女性の健康読本　女医が贈るヘルスガイド』
石川てる代著　第三文明社　2004年9月　945円

『新　自分で治す「冷え性」』
田中美津著　マガジンハウス　2004年8月　1200円

『天然出産』
西村知美文　西尾拓美絵　アスコム　2004年6月　1365円
数々の不妊治療を経験し失敗。あきらめていたところ妊娠発覚、一児のママになった。それまでの平坦ではない道のりを書いた体験記。ほのぼのだけでない出産記。

『日本で不妊治療を受けるということ』
まさのあつこ著　岩波書店　2004年9月　1785円
大半の人が失敗を経験するという「不妊治療」。「治療」という語感から、あたかも病院に行けば妊娠できるという幻想が社会に潜んでいるとも。

『乳がん』
主婦の友社編　主婦の友社　2004年8月　1365円

『妊娠を考えているあなたへ　そして妊娠をしたあなたへ　おなかの赤ちゃんと過ごす賢い40週のために』
藤井知行著　東京図書　2004年5月　2310円
自分にとって自然なお産をするために、子宮のトラブル・妊娠中・出産の生活不安をQ&Aで解説。

『働く女性たちのウェルネスブック』
荒木葉子著　慶応義塾大学出版会　2004年9月　1575円
20の事例で女性をめぐる病気の治療法・法律・サポート体制をわかりやすくまとめた。

『卵子』
きくちさかえ　鈴木賀世子著　早乙女智子医学監修
小学館　2004年7月　1050円
卵子を1つの人格をもったランコと定義し、イラストでわかりやすく卵子を説明。卵子のしくみを知れば自分の体がもっとよく理解できる。

〔セクシュアリティ〕

『愛する愛される　デートDVをなくす・若者のためのレッスン7』
山口のり子著　海里真弓絵
梨の木舎　2004年9月　1260円

愛されているから、愛しているからとパートナーの暴力に耐える女性。デートDVの正しい知識と対応策を段階ごとに詳しく解説。

『【解説】性同一性障害者性別取扱特例法』
南野知恵子監修　日本加除出版　2004年11月　3465円

『季刊セクシュアリティNo.18』
エイデル研究所著　エイデル研究所　2004年10月　1500円
特集は「性教育のキーワード50」。いのち・からだの基礎理解、性をめぐる人間関係の学習などの分野に分類した50の言葉を解説。コンパクトでかつ深い内容。

『児童性愛者』
ヤコブ・ビリング著　中田和子訳　解放出版社　2004年10月　2100円
デンマークには、法的に認められた「児童性愛愛好者協会」が存在していたという。著者は、児童性愛者になりすまし、団体に潜入取材したフリージャーナリスト。衝撃の実態と内容。「この作品を書き下ろすことでしか、地獄のような苦悩を味わった自分自身を救えなかった」と著者。物語でないことが恐しい。

『少女たちはなぜHを急ぐのか　生活人新書114』
高崎真規子著　日本放送出版協会　2004年7月　714円
中学生から20代はじめの少女たちのセックスの実情を調査。彼女たちにとってのセックスの位置、まわりの人々からみた少女たちの位置を検証。少女たちにとってのセックスを考える。

『性同一性障害30人のカミングアウト』
針間克己監修　相馬佐江子編著　双葉社　2004年7月　1680円
性同一性障害を持つ30人へのインタビュー。性同一性障害は、身近にあるものという認識が生まれます。

『セックスボランティア』
河合香織著　新潮社　2004年6月　1575円

障害者だって性欲があるのは当然。出張ホスト・デリバリーヘルスなど「性のボランティア」。彼らの現実をとらえたノンフィクション。「女性はセックスの『ボランティア』という言葉だけで傷つくものです」の言葉が印象深い。

『同性パートナー　同性婚・DP法を知るために』
赤杉康伸　土屋ゆき　筒井真樹子編著
社会批評社　2004年7月　2100円
同性婚が認められていない日本で、同性パートナーを持った人々はどのように暮らしているのだろうか。インタビューでその実態を探り、諸外国の制度を検証。同性パートナーの新しいシステムの創造をはかる。

『リサイクル・セックス　元彼や男友だちと気軽にセックスする女たち』
安藤房子著　WAVE出版　2004年8月　1470円
元彼や男友だちとセックスする女性が増えているという。彼女たちは何を求めてセックスをするのか。インタビューを通じてその心の奥にある悩みを炙り出し、解決策を考えた。

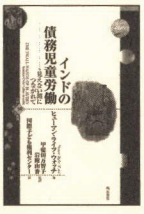
〔セクハラ・暴力〕

『愛されるために生まれたのにね。』
内越言平著　星雲社発売
アイシーメディックス発行　2004年10月　1470円
虐待などに苦しめられる子どもたちを救う活動をし、数千人の子どもたちと接してきた著者。子どもの犠牲がいかに大きいか。

『it happens to BOYS too　男の子を性被害から守る本』
J・サツーロ　R・ラッセル　P・ブラッドウェイ著
三輪妙子訳　田上時子解説
築地書館　2004年11月　1050円

性被害は、男の子にも起こる。性被害にあわないためには、どうするか。あってしまったら、どうするか。

『インドの債務児童労働　見えない鎖につながれて』
ヒューマン・ライツ・ウオッチ著　甲斐田万智子　岩附由香監訳
明石書店　2004年6月　3150円



インドの債務児童労働における深刻な人権侵害の状況を明らかにした。当事者の子ども・政府役人・NGO関係者へのインタビューを読むと、事実の厳しさにたじろぐ。

『家族という暴力』
芹沢俊介著　春秋社　2004年6月　1785円
虐待・DV・愛情・母という存在を放棄する母、という切

り口で、家族の現実を考察。誰しもが、加害者・被害者になる可能性がひそんでいる今、暴力から逃れるには何が必要なのか。暴力・子どもの著書を多く手がける著者の、新たな暴力との向き合い方。

『虐待　子から母への手紙』
斉木桂子著　プランニングオフィスパピルス発行
創英社　三省堂書店発売　2004年6月　2520円
心理カウンセラーであり、心理カウンセラー養成所を営む著者の自叙伝。母から虐待を受け、従兄に性的虐待を受け自殺まで図った少女が、心理学を学び、歩き出した。

『虐待という迷宮』
信田さよ子　シャナ・キャンベル　上岡陽江著
春秋社　2004年9月　1785円

臨床心理士・日本とアメリカの自助グループ代表の3人が、暴力・虐待について語った鼎談。現在は、自助グループで活動するシャナ・キャンベルさんの体験談は過酷だが、詳細まで詳しく語ることで救われたという。

『心の目で見る子ども虐待』
広岡智子著　草土文化　2004年8月　1575円
子どもの虐待防止センター相談員である著者が、長年の経験を通し、なぜ虐待をしてしまうのかを中心に書いた。母親の心の闇を取りのぞくことが重要。

『子どものころに性虐待を受けた人のパートナーのためのガイド　性虐待を生きる力に変えて⑤』
グループ・ウィズネス著　明石書店　2004年9月　1050円
自分の大切なパートナーが、サバイバー（性的虐待を受け成人した人）だったらどう対応すればいいか。

『新版 子ども虐待の防止力を育てる 子どもの権利とエンパワメント』
村本邦子　西順子　前村よう子著　三学出版　2004年8月　1890円

『世界の高齢者虐待防止プログラム　アメリカ、オーストラリア、カナダ、ノルウェー、ラテン・アメリカ諸国における取り組みの現状』
パトリシア・ブラウネル他著　多々良紀夫　塚田典子監訳
明石書店　2004年9月　2625円
高齢者に対する考え方や高齢者虐待防止プログラムを国、地域別に調査し、まとめたもの。各国に長・短所があり、なるほど。日本の実情に合う防止プログラムとは？

『セックス　フォー　セール　売春・ポルノ・法規制・支援団体のフィールドワーク』
ロナルド・ワイツァー著　松沢呉一監修
岸田美貴訳　ポット出版　2004年8月　3360円
アメリカ・イギリス・オランダ・スペインなどのセックスワークの現実を調査。

『DV加害男性への心理臨床の試み　脱暴力プログラムの新展開』
草柳和之著　新水社　2004年7月　2310円
DV加害者の特徴・本質をとらえ、脱暴力プログラムを実例を用いて紹介。

『保育者は幼児虐待にどうかかわるか　実態調査にみる苦悩と対応』
春原由紀　土屋葉著　大月書店　2004年7月　1365円
保育者が実際に関った虐待ケースを紹介し、対応法・援助法を細かく指導。

『暴力の世界地図　くらべてわかる世界地図①』
藤田千枝編　大月書店　2004年9月　1890円

紛争・兵器売買・児童労働・交通事故、世間にあふれるあらゆる暴力を具体的な数字でまとめた。兵器をつくっている会社トップ35社に日本の企業が3社入っている。

『ぼくは痴漢じゃない！　冤罪事件643日の記録』
鈴木健夫著　新潮社　2004年7月　540円
ある日、通勤中に痴漢にまちがわれた会社員の、無実を勝ち取るまでの記録と、一緒に戦った弁護士の解説。レッテルの恐さを知る。

『もし大切な人が子どもの頃に性虐待にあっていたら』
ローラ・デイヴィス著　麻鳥澄江　鈴木隆文訳
青木書店　2004年8月　2835円
サバイバー（子どもの頃に性虐待を受けた人）を快復させるために、その道のりをやさしくといたガイドブック。具体的・実践的で豊かなアイデアが満載。

〔文学・エッセイ・芸術〕

『雨はコーラがのめない』
江國香織著　大和書房　2004年5月　1260円
「雨」は、著者の愛犬の名前である。共通の趣味は音楽鑑賞。「雨」と過ごす日常を音楽にからめて書いたエッセイ。

『生かされる理由　人はなぜ生まれ、どこへいくのか』
鈴木秀子著　幻冬舎　2004年6月　1470円
愛する人を失う「死」、自らが体験する「死」、この2つの立場の「死」を受け入れる心の持ち方をさまざまな体験から紹介。

『生きがいについて　押谷美恵子コレクション』
押谷美恵子著　みすず書房　2004年9月　1575円
「生きがい」という言葉は日本語だけにしかないそうだ。精神科医でハンセン病患者と深く関った著者が、「生きがい」を求める心・感じる心・うばうもの・発見を体系的にとらえ書いた。

『イギリス式月収20万円の暮らし方』
井形慶子著　講談社　2004年5月　1575円
イギリス人は経済力に左右されない工夫に満ちた質の高い生活を送っているという。

『異性文学論　ミネルヴァ評論叢書〈文学の在り処〉③愛があるのに』
千石英世著　ミネルヴァ書房　2004年8月　3150円
現在女性作家の系譜はどこからはじまり、何を書いてきたのか。女性文学の歩みをテキストから探る。

『一葉の恋』
田辺聖子著　世界文化社　2004年6月　1575円
好きな俳句、作家、子どもの頃の想い出をひもとき綴ったエッセイ。

『一葉舟』
領家高子著　日本放送出版協会　2004年10月　1575円
一葉が、本名樋口夏子としてどのように生きたのかを思いのままに書き上げた小説。明治の息吹が蘇える。

『英国レディになる方法』
岩田託子　川端有子著　河出書房新社　2004年9月　1890円
ヴィクトリア朝家庭文化の繁栄の要であるレディ。レディは、どのように作られ、何を好んだのか？女性と子どもの生活にかかわる全てを細かく紹介し、実態に迫る。

『冤罪の構図』
江川紹子著　新風社文庫　2004年8月　691円
警察・検察・裁判官が自らの能力を過信し、傲慢になったとき冤罪事件は簡単におこるという。ジャーナリスト江川紹子が、信じられないような実例を紹介し検証。

『「お気楽生活」のお約束　ホンネで考えた女の人生設計』
酒井雅子著　集英社インターナショナル発行
集英社発売　2004年6月　1470円
創業したばかりのベンチャー企業に入社、4回の転職、現在は社長をしているという起業プランナー。時代の波にのり、信念を持って歩んできた著者のサクセスストーリーと金融術。

『夫と共に死を見つめて　女性州知事バーバラの手記』
バーバラ・ロバーツ著　入江真佐子訳
プレジデント社　2004年8月　1050円
オレゴン州知事在任中、夫がガンで余命1年と宣告された。2人は話し合い、残りの時間を在宅ホスピス介護を選択し、死に向き合う。

『男の勘ちがい』
斎藤学著　毎日新聞社　2004年7月　1300円
夫・父親・息子・職業人など、さまざまな立場での男らしさは間違っていると著者。事件や身近な人々を例に挙げ、どのように勘ちがいしているのかを考察。

『女の手紙』
荒井とみよ　永渕朋枝編　双文社出版　2004年7月　2940円
樋口一葉・与謝野晶子らの「女の手紙」と夏目漱石・谷崎潤一郎らの作品中の「女の手紙」を、表現・手法・ジェンダーなど様々な角度から読み解いた。

『女60代輝いて生きる　思いきり羽ばたいてみよう』
下重暁子著　大和出版　2004年8月　1470円
60代はひよっこだという。まだまだある可能性を、ラクしたいと放棄したり孫にとられちゃ、もったいない。

『書き込み式「いいこと日記」　2005年版』
中山庸子著　マガジンハウス　2004年9月　1155円
前向きに生きるための日記帳。月ごとのエッセイや目標シートに励まされます。

『金子みすゞ　美しさと哀しみの詩』
詩と詩論研究会編　免誠出版　2004年7月　2625円

『金子みすゞ　花の詩集1』
金子みすゞ童謡　よしだみどり絵
JULA出版局　2004年3月　1050円

『恋するように働きなさい』
水澤佳寿子著　小学館　2004年8月　1260円
離婚し、3人のママにして起業家。人生は平坦ではないけれど、ちょっとした気の持ち方で大きく変えることができる。

『言葉が通じてこそ、友だちになれる　韓国語を学んで』
茨木のり子　金裕鴻著　筑摩書房　2004年7月　1575円
韓国語講師の草分け金裕鴻氏と、30年来の生徒である詩人茨木のり子が対談。日韓の文化の違い、韓国語習得法、歴史についてをわかりやすく語り合う。お隣の国との、小さいようで大きな習慣の違いがおもしろい。

『言葉の広がり』
福田雅子著　花押社　2004年8月　2100円
歳時の花々や植物、雨、雪、風、月などの天体現象を、日本人が古今の文学作品にどのように採り入れ、どのような言葉で綴ったのかを、著者の感性で選び、読み解いた。

『子どものころ戦争だった　昭和10年生まれ一少女の回想』
太田純子著　ノンブル社　2004年9月　2415円
戦争中に少女時代を過ごした著者の回想記。著者の記憶力のよさに驚く。それほど強烈な少女時代ということかもしれない。

『在日朝鮮人女性文学論』
キム・フナ著　作品社　2100円　2004年8月
戦後60年の在日朝鮮人女性作家の作品を読み解き、在日社会、家庭内の様子、帰化、結婚問題などを浮き彫りに。「あきらめて生きろ　ここはどこまでも日本と父が言いぬ」

『差異の近代　透谷・啄木・プロレタリア文学　中山和子コレクション2』
中山和子著　翰林書房　2004年6月　5250円
文学を通してのジェンダー構造の分析、性差の政治学の解明を試みる著者の研究を、初めから今日に至るまで集めた論文集。プロレタリア文学をひもとき、現代に語りかけているものを探り出した30年の歩み。

『叫び　冤罪・大崎事件の真実』
入江秀子著　かもがわ出版　2004年9月　1995円
夫・義兄・甥の証言によって無実の罪をきせられた女性の25年の闘いを綴った。裁判のやり直しはまだ認められていないが、彼女の強さには頭が下がる。

『仕事もしたい赤ちゃんもほしい　新聞記者の出産と育児の日記』
井上志津著　草思社　2004年8月　1260円
女性新聞記者の上司への妊娠報告から出産・育休・仕事復帰・子育て・仕事を赤裸々に綴った。上司や会社の体制・夫への不満も包みかくさず書いている。初出は自社HPというところに、会社及び周りの愛が感じられる。子どもが病気で会社を休まないといけない時は、自分の調子が悪いと云うと白い目で見られないとの事。幼い子を持つ母への世間の風当たりを強く感じる1冊でもある。

『自殺願望　どうすれば「抑止力」になるのか』
ロブ@大月著　彩流社　2004年8月　1575円
なぜ死のうとするのかを多くの取材を通して探る。当事者と向きあっているつもりが、肩すかしを食うこともあるようだ。そのなかで見えてきた抑止力とは。

『知っていますか？どもりと向きあう一問一答』
伊藤伸二著　解放出版社　2004年8月　1050円

『熟年恋愛講座　高齢社会の性を考える』
小林照幸著　文藝春秋　2004年9月　756円
高齢者の恋愛と性を、老人ホームのルポ、性風俗店の稼動状況、1人の女性への取材を通して探る。

『シングルママのつぶやき』
高野愛子著　扶桑社発売
ぱんだくらぶ発行　2004年6月　840円
さまざまな立場のシングルマザーの言葉をまとめたもの。勇気・葛藤・罪・プライド・子は鏡・宝物など。心の表と裏を行ったり来たりしている現実がよくわかる。

『スローライフなおじさんの台所　ひとりを快適に生きる』
音羽健著　主婦の友社　2004年8月　1365円
団塊世代のおじさんが、25年の結婚生活にピリオドを打ち1人暮らしを始めた。いつもピカピカの鏡は妻がふいていたのかと驚くくだりなど、愉快。

『聖母のルネサンス　マリアはどう描かれたか』
石井美樹子著　岩波書店　2004年9月　3045円
聖母マリアが書を持つ像に励まされた女性たちは、文字文化に活路を見い出し、識字力をつけたという。数々の聖母マリアの名画・像から、人々はマリアをどのようにイメージし、自分たちと関わらせていったのか読み解いた。作品と時代背景が同時にわかる。

『背中をポンと押してくれる言葉』
松原惇子著　二見書房発売
リヨン社発行　2004年9月　1260円
少し考え方を柔らかくするだけで、物事がうまく運ぶことがある。

『それからのわたし』
清水秀子語り　高山文彦著　飛鳥新社　2004年6月　1680円
作家・なかにし礼の元妻が、離婚し、美容のスペシャリストとして一児を育てた人生を語る。捨てることで前に進んできた生き様はすがすがしい。

『ダーリンは、アメリカ人　国際結婚レポート＆エッセイ』
タッカー里美著　三修社　2004年9月　1785円
アメリカ人の夫とNYで過ごすことになった著者。食の豊かさとエンターテーメントの充実ぶりがうらやましい。

『ダーリンは、イギリス人　国際結婚レポート＆エッセイ』
ウエイド美加著　三修社　2004年8月　1785円
イギリス人の夫とオックスフォードで過ごすことになった著者の生活エッセイ。イギリスの出産事情が詳しく書かれていて興味深い。

『小さいときから考えてきたこと』
黒柳徹子著　新潮社　2004年7月　500円
黒柳徹子の子ども時代、ユニセフ大使の話、テレビのできごとを書いたエッセイ。素直で真剣な著者のエピソードに心なごむ。

『小さな魔女のカプチーヌ　魔女のえほん』
タンギー・グレバン作　カンタン・グレバン絵
江國香織訳　小峰書店　2004年10月　1470円
魔女修行中のカプチーヌが、大失敗。そこからはじまる少女の冒険。カプチーヌは魔女になれるのか。

『なにわ華がたり　中川絹子　桂米朝と一門を支えた半生記』
廓正子著　淡交社　2004年7月　1680円
桂米朝の妻、3人の子の母、60人の弟子のママである中川絹子の半生記。

『呪われた愛』
ロサリオ=フェレ著　松本楚子訳　現代企画室　2004年9月　2625円
性差・階層差・国籍の差、あらゆる差別に鋭い批判の眼を向ける作家の短・中編小説集。出生地であるプエルトリコの郷土小説のパロディである表題作は、農園主・黒人奴隷の言葉を通して、国の歴史、翻弄され続けるプエルトリコ人の悲しみ・悩み・葛藤を描いている。

『博多に生きる女たち　デリヘルで頑張る母子の物語』
織田真理著　碧天舎　2004年7月　1050円
デリヘルとはデリバリーヘルスの略で、女性コンパニオン派遣業。このデリヘルを博多でNO1に育てた著者の、起業からの道を綴ったもの。

『母親が知らない娘の本音がわかる本　小中学生の危険なサインの見抜き方・向きあい方』
魚住絹代著　大和出版　2004年9月　1575円
少年院で12年間にわたり非行少女の立ち直りに携わってきた著者。その実体験から子どもたちの世界のこと、娘への接し方、向きあう方法、守る方法を具体的・実践的に紹介。娘と大人の実情の開きは、こんなにも大きい。

『母に歌う子守唄　わたしの介護日誌』
落合恵子著　朝日新聞社　2004年8月　1365円
79歳、要介護5の母の介護日誌。大変な毎日をこなしながら、作家という冷静な目で状況を見守る姿はたくましく切ない。

『HARUKO　母よ！引き裂かれた在日家族』
金本春子　金性鶴著
フジテレビ出版発行　扶桑社発売　2004年7月　1470円
オモニは、12歳で来日。放蕩夫にあいそをつかし、7人の子どもを1人で育てる。その間の逮捕歴は37回。この壮絶の人生を息子が語った。

『樋口一葉「いやだ！」と云ふ』
田中優子著　集英社　2004年7月　756円
働き口がない、家族を養わなければならない、結婚できない、借金がある。これは現実の樋口一葉の姿である。その一葉が書いた代表作5作品をあらゆる角度から読み解き、現在困難に立ち向かう私たちの心にも響く言葉を紹介。

『樋口一葉　その人と作品　美登利の苦悩遊廓吉原の黒い淵』
和泉怜子著　郁朋社　2004年10月　1000円
「たけくらべ」のヒロイン美登利は、公娼。その美登利をさまざまな研究者の説や樋口一葉自身の残した文などから読み解き、「苦悩」の真実をあぶり出した。

『美は匠にあり　平凡社ライブラリー509』
白州正子著　平凡社　2004年8月　1260円
「道具は使ってこそ自分のモノになる」という白州正子。職人たちの語る言葉や生きづかいまでわかる文章に引き込まれる。

『ブスの開き直り』
北原みのり著　新水社　2004年9月　1470円
芸能から政治まで、フェミニズムの視点でズバズバ語る著者のエッセイ。女の風俗の未来は？女の欲望の源は？結婚は？

『ブックセラピー　女性が元気になるためのブックガイド』
三浦天紗子著
アンドリュース・プレス　2004年8月　1470円
本には心を癒す力がある。恋・ストレスなどに効く本を紹介。著者のレビューを見て、新しい視点が広がるかもしれない。

『冬はニューヨーク、夏は玄界灘で』
宮地六美著　葦書房　2004年3月　1680円
冬は娘のいるNYで1人暮し。夏は地元玄界灘で1人暮し。趣味は絵画。その生活の中で見えてきたアメリカ・日本の良い所・悪い所を本音で語るエッセイ。

『ヴェロニカ・ゲリン　アイルランドの麻薬犯罪組織に挑んだ女性記者　その実録』
エミリー・オライリー著　佐治多嘉子　小林薫訳
ソフトバンクパブリッシング（株）2004年6月　1680円

『ホスピスのこころ　最後まで人間らしく生きるために』
石垣靖子著　大和書房　2004年8月　1890円

『ホントに、この人と結婚していいの？』
石井希尚著　主婦の友社　2004年6月　1365円
多くのカップルをカウンセリングし、本人が実践したことを元に、パートナーを理解するヒントを綴る。

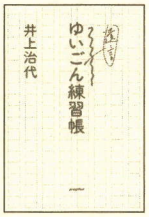
『毎日生きてるお互い同士　あごら297号』
あごら新宿著　BOC出版部　2004年9月　1050円

『娘と話す　アウシュヴィッツってなに？』
アネット・ヴィヴィオルカ著　山本規雄訳
現代企画室　2004年8月　1050円
ユダヤ人抹殺の事実を、父と娘の会話形式で明かしていく。娘の質問は、素朴で知りたいことを突いており、父の解説はわかりやすい。

『目白雑録』
金井美恵子著　朝日新聞社　2004年6月　1575円

『優しく歌って、高らかに歌って　檻の中の女たち』
パトリシア・マッコネル著　椎名葉訳
徳間書店　2004年8月　2100円
アメリカ女子刑務所での自らの体験をもとに書かれた小説。刑務所内の暴力などリアルな描写には身が震え、社会のシステムについて考えさせられる。

『ゆいごん練習帳』
井上治代著　ポプラ社　2004年8月　1000円
法的な遺言状の書き方ではなく、自分の生きた証をそっと次世代に伝えるために記録を残す方法を提案。



『優日雅　夏目雅子ふたたび』
森英介著　実業之日本社　2004年9月　1995円
母・映画監督・俳優・マネージャーなどが夏目雅子との思い出を語り、俳人・夏目雅子が残した俳句を読み解いた。

『よりよく働きよりよく生きる　It's Wonderful to see you』
波多野容子著　日経BP企画発行
日経BP出版センター発売　2004年8月　1575円
経理一筋25年の著者が、父の急逝に伴い女社長となった。会社改革と女性の生き方を語る。人生に無駄なことなど1つもないとのこと。

『41歳からの哲学』
池田晶子著　新潮社　2004年7月　1260円
戦争・脳・ネット心中・宗教あらゆることを哲学。「考えないことは馬鹿だ」と言い切るエッセイは痛快で気持ちいい。

『離婚裁判を越えて　それぞれの命とその魂』
大田純子著　近代文芸社　2004年9月　1800円
夫が、実母の死因を疑って暴力を振ったことをきっかけに離婚を決意し闘った記録。裁判の様子だけでなく、心の成長が描かれている。

『レイチェル・カーソンの世界へ』
上遠恵子著　かもがわ出版　2004年8月　1575円
自然との共生をテーマに、科学的な事柄をわかりやすく、薫り高く描いた作家レイチェル・カーソンの残したものや生涯をまとめたもの。自然を体験や研究によって自分のものにしていったレイチェルの著書に触れたくなるはず。

『68年の女を探して　私説・日本映画の60年代』
阿部嘉昭著　論創社　2004年6月　2625円
68年のパリ革命後、女性性は、抑圧的なものから、多岐の分野に飛躍し、その変化は映画の中に見てとれると著者。60年代後半の映画を解析し、女性性の移り変わりを検証。映画の細かな意味付けに驚かされる。

『わたしが海外生活で見つけたもの　女性100人の海外体験』
主婦の友インフォス情報社「海外留学」プロジェクト著
主婦の友社　2004年7月　1470円
高校・大学留学・インターンシップ・ボランティアなどさまざまな目的で海外生活をした100人の女性の体験談。同じ海外生活でも全く違う感想が豊富でイメージが広がる。

『〈私〉の愛国心』

香山リカ著　筑摩書房　2004年8月　735円

教育基本法に「愛国心」という言葉が盛り込まれようとしている。戦後、個人の自由を大切にしすぎたために、公の意識の衰退をくい止めるのだという。日本の諸々の問題をひもとき、「愛国心」によって公の意識は戻るのかを検証。

『「わたし」を生ききるために　知っておきたい一番たいせつなこと』

吉武輝子著　ポプラ社　2004年4月　1365円

しなやかにやわらかい心を持つと「わたし」らしく生きれるという。その秘伝と、まわりにあつまる人々との交流を綴ったエッセイ。

〔女性史・歴史〕

『江戸の女の底力　大奥随筆』

氏家幹人著　世界文化社　2004年11月　1785円

封建道徳に縛られた存在とイメージされがちだが、江戸時代の女性は、意外にも自己主張が強く活発、男たちからも敬意を持たれていたとのこと。おもに武士の家の女性を例に、富・権力・恋・性・キャリア・再婚などを自由自在に謳歌した姿を取りあげた。目からウロコのおもしろ話満載。

『女で読み解くオーストラリア』

青山晴美著　明石書店　2004年8月　2310円

「報告書・事件簿」をひもとき、支配される女の歴史をまとめた。女囚・アボリジニ・日本・メラネシア・中国女性たちの悲劇があり、現在の多文化主義のオーストラリアがある。

『韓国女性人権運動史　世界人権問題叢書51』

韓国女性ホットライン連合編　山下英愛訳

明石書店　2004年7月　7140円

『現代日本女性史　フェミニズムを軸として』

鹿野政直著　有斐閣　2004年6月　2310円

戦後、日本のフェミニズムは、どんな環境から生まれたのか。誰がフェミニズムを支えてきたのか。その軌道をたどり、フェミニズムの挑戦をふりかえる。

『古代女性史への招待　〈妹の力〉を超えて』

義江明子著　吉川弘文館　2004年10月　2415円

古代に生きた女たちの姿をわかりやすい文章でまとめたエッセイ風論文。古代女性の足跡をたどり、現代に生きる私たちの可能性を探る。

『時代を変えた女たち』

童門冬二著　潮出版社　2004年7月　1785円

『「昭和の記憶」叢書①　米沢の七人姉妹』

八島三津子著　日本図書クラブ　2004年9月　1400円

23歳の著者が、茨木で生まれ育った母方の祖母の妹に聴き取り調査をし、先祖の道をたどった。一家の歴史は日本の歴史そのものに感じる。

『戦国の女たちを歩く　乱世を生き抜いた13人の足跡』

田端泰子著　山と渓谷社　2004年7月　1575円

戦国時代を生き抜いた、有名・無名の女性13人の人物像に迫り、その人々にまつわる土地を紹介。

『チャイナドレスをまとう女性たち　旗袍にみる中国の近・現代』

謝黎著　青弓社　2004年9月　4200円

封建社会から資本主義社会、そして社会主義社会に至る中国社会の中で、チャイナドレスはどのような歴史を歩んできたのか検証。中国社会そのものの変動と女性たちの心性も同時に探った。

『仏教と女の精神史』

野村育世著　吉川弘文館　2004年9月　2100円

そして、仏教説話に描かれた女性像の移り変わりから、中世の女性観を探り、女の心の歴史をひもとく。

『平安期の女の生き方　輝いた女性たち』

服藤早苗著　小学館　2004年9月　1995円

平安時代の女の史料を丹念に探し出し、性愛・結婚・子育てなど、日常の彼女たちの姿をイキイキと鮮らした。本書を読んでから『源氏物語』を読めば、新しい発見ができそうだ。

『魔女狩り　ヨーロッパ史入門』

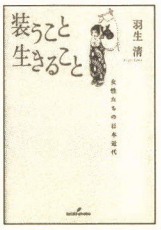
ジェフリ・スカール　ジョン・カロウ著　小泉徹訳

岩波書店　2004年10月　2205円

16・7世紀に爆発的に行われた魔女狩り。魔女・魔法とは何だったのか。社会・民衆文化はどうなり立っていたのか。女性迫害だったのか。あらゆる視点で「魔女」を読み解いた。

『装うこと生きること　女性たちの日本近代』

羽生清著　勁草書房　2004年6月　2625円



明治文明開化後、袂をやめ、西洋の衣服を着こなしていく日本女性たち。その先駆者である津田梅子や、一葉・晶子・らいてう・林芙美子の発表作品をテキストに、衣服の近代化はどういう道をたどったのかを探った。服装からみた女性史。

〔自伝・評伝〕

『アメリカを揺り動かしたレディたち』

猿谷要著　NTT出版　2004年10月　1680円

アメリカ先住民；ポカホンタス、女医第一号；エリザベス・ブラックウェル、作家；マーガレット・ミッチェル、女性解放を訴えたベティ・フリーダンなど、22人のアメリカ女性の生きざまを紹介。不屈の精神と熱い思いが共通点。

『いまに生きる宮本百合子』

伊豆利彦　澤田章子　岩渕剛　羽田澄子　須沢知花　辻井喬著

新日本出版社　2004年9月　1995円

戦争と軍国主義復活の新たな危機に、いち早く警鐘を打ち鳴らした作家宮本百合子。彼女の作品・生涯をたどり、思想の全てを多角的に検証。

『おヨネとコハル　増補改訂版　ポルトガル文学叢書⑤』
ヴェンセスラウ・デ・モラエス著　岡村多希子訳
彩流社　2004年8月　2100円
ポルトガル領事として来日し、日本に魅せられ、移住した作家は、「おヨネ」「コハル」という2人の日本女性を愛し、失った。2人の死を通して、日本人の死生観・宗教・家族・愛のあり方を綴ったエッセイ。大正時代の日本の風情が読みとれる。

『ジェイン・オースティン　小説家の誕生』
中尾真理著　英宝社　2004年7月　2520円
19世紀イギリスの小説家として人気の高いジェイン・オースティンが、作家として活躍するまでの軌跡をたどり、作品制作の過程を調べた。

『障害者雇用のパイオニア・渡辺トク伝 洗濯屋女社長・94年の道のり』
桐生清次著　ミネルヴァ書房　2004年9月　1890円
障害者の自立と雇用に情熱を注ぎ、94歳の今も元気に働いている「渡辺トクさん」の半生記。スゴイ。

『なんとかなるわよ　お姫さま、そして女将へ　立花文子自伝』
立花文子著　海鳥社　2004年6月　2100円
伯爵家の1人娘として育ち、3男3女を育て、料亭の女将として生き抜いた女性の自伝。

『人間の記録　水の江瀧子　ひまわり婆っちゃま』
水の江瀧子著　日本図書センター　2004年10月　1890円
松竹歌劇団の前身、東京松竹楽劇部で女優として活躍。その後、石原裕次郎を発掘し、多くの映画などを生み出した名プロデューサーの自叙伝。欲はないけど芯のある生き方をしている人。

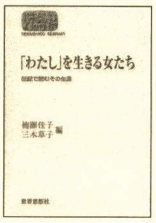
『肌にふれ心にふれて』
永嶋久子著　西日本新聞社　2004年6月　1600円
20歳で販売員として資生堂に入社。第一回海外派遣美容部員として香港に勤務。その後、アメリカ・欧州・アジアを巡り、51歳で取締役に。

『フロイトのアンナO嬢とナチズム　フェミニスト・パッペンハイムの軌跡』
田村雲供著　ミネルヴァ書房　2004年10月　3150円
時代が女の病としたヒステリーの患者「アンナO嬢」すなわちパッペンハイム。フロイトたちの関心と期待に背を向け、社会運動に進み、ユダヤ女性解放運動の指導者となった。その人生の軌跡をおった力作。

『ヘンリー・ストリートの家　リリアン・ウォルド～地域看護の母～自伝』
リリアン・ウォルド著　阿部里美訳
日本看護協会出版会　2004年8月　2520円
NYで100年以上続く施設の実践、市や国への働きかけが活き活きと描かれている。看護の本当の意味を知る。

『ほかの誰でもない私をさがして　スチュワーデス、弁護士になる』
志賀こず江著　講談社　2004年8月　1470円
スチュワーデス→専業主婦→大学生→13回の司法試験→両親の介護→夫の病気→弁護士。ざっとした著者の歩み。逆境に強い人だ。

『「わたし」を生きる女たち　伝記で読むその生涯』
楠瀬佳子　三木草子著
世界思想社　2004年9月　1890円
明治時代から現在に至るまで、困難な状況に挑戦した女性たち（芸術家・作家・スポーツ選手・教育家）の自伝・伝記をもとに、そのパワフルでたくましいライフストーリーをまとめた。勇気をもらえる1冊。



〔高齢・福祉〕

『「ありがとう」は祈りの言葉　隠岐の離島に生きる幸齢者たち』
柴田久美子著　佼成出版社　2004年7月　1260円
隠岐・知夫里島で看取りの家「なごみの里」を立ち上げた著者。高齢者と共に生活し、多くの看取りの場所で感じたことを綴った奮闘記。

『老いたる母と、戦いすんで日が暮れて　尊厳ある介護を求めて』
小室加代子著　亜紀書房　2004年9月　1785円
三人姉妹の末っ子である著者が、15年の介護同居生活から理想的な施設入所にこぎつけるまでの体験記。愛しすぎるがゆえに起こるアレコレを受け入れつつ、工夫した日々を公開。

『親の捨て方　愛憎にまみれた13人の介護記録』
高齢者を考える会著　データハウス　2004年11月　1575円
介護している人、終えた人の介護愛憎劇。過激なタイトルである。介護には体力・精神力が必要だが、介護をする人々の団結力のなさが、介護する人を苦しめているようにも感じた。

『介護保険下の在宅介護支援センター　ケアマネジメントとソーシャルワーク』
副田あけみ編著　中央法規　2004年8月　3360円

『介護ライフスタイルの社会学』
春日井典子著　世界思想社　2004年9月　1680円
高齢化社会に伴ない、介護というものが1人1人の身近なものになってきた。介護をライフスタイルに組み込んだ時、家族はどこまでケアの役目を担うのか。個人化の進む現代の高齢者、ケア提供者の関係を探り、新たな介護論を展開。

『体と心の在宅介護　家族がしあわせになる』
冨田順子著　実業之日本社　2004年9月　1575円

『頑張らなくてもできる介護』
山崎えり子著　家の光協会　2004年10月　1365円
夫になる人が事故に遭い身体障害者に。それから10年。自分なりの介護を続けてきた著者が、介護便利グッズと介護心得を書いた。著者は、「節約生活のススメ」で一躍有名になった人。介護も合理的。

『今日を楽しむ！老いの満足生活』
岡田信子著　大和書房　2004年10月　1575円

『ケアの社会学　臨床現場との対話』
三井さよ著　勁草書房　2004年8月　2730円
「生」の定義は個々によって異なる。延命を望む者・ホス

ピスの暮らしを望む者、多種多様である。それぞれの望む「生」をまっとうするためのケアはどういうものがあるのか、臨床現場に足を運び、看護職を中心にケアを試みる過程を明るみにし、今後のケアについて社会的視座から考察した。

『高齢社会と福祉』
朝倉美江編著　ドメス出版　2004年9月　2940円
高齢化社会を、社会制度・身体・精神・居住・生きがい・町づくりなど多角的な視点で検証。

『コレクティブハウジングで暮らそう　成熟社会のライフスタイルと住まいの選択』
小谷部育子著　丸善　2004年6月　2415円
コレクティブハウスとは、多様な世代・世帯の人々がプライベートの生活を確立した上で緩やかなコミュニティをつくり、豊かな暮らしを育む住宅形態。その第一号であるハウスの歩みと、生活者の1年、コレクティブの先駆国ストックホルム訪問記など。気を使わず、支え合う自主運営・自主管理。

『The KAIGO 笑い声が響きあう高齢社会の実現に向けて』
竹本直一編著　ぎょうせい　2004年9月　1500円
高齢者の最後の頼りは財政的な安定と愛情に満ちた心の支えだと著者。父の介護の経験と、厚生労働大臣政務官の立場から現状をふまえ新しい可能性を探った。

『死後まで安心ひとり暮らし達人術』
吉廣紀代子著　三省堂　2004年9月　1680円

『少子高齢化社会のライフスタイルと住宅　MINERVA福祉ライブラリー73　持家資産の福祉的選択』
倉田剛著　ミネルヴァ書房　2004年8月　3360円
持家の普及による経済的効果・福祉的効果の可能性を探った。

『なぜか誰も教えない60歳からの幸せの条件「家族」にも「蓄え」にも頼らない日常術』
石川由紀著　情報センター出版局　2004年9月　1470円
家計・住居・介護・医療・防犯など、単身シニアライフを幸せに自分らしく過すための知恵を公開。

『八十歳をすぎてわかってきた人生の大切なこと』
吉沢久子　清水妙著　海竜社　2004年9月　1575円
80歳を越えた2人の女性の、1年間にわたる往復書簡をまとめたもの。

『老親の看かた、私の老い方　看護師が考えた「老い」と「介護」』
宮子あずさ著　集英社　2004年8月　500円
一人娘で看護師。両親の老いにどう対処すればいいか考え書いた8年前のエッセイに、父を見送った今感じたことを加筆。老いと介護の理想と現実の物語。

〔メディア〕

『アメリカ女性のシングルライフ　メディアでたどる偏見の100年史』
ベッツィ・イズリアル著　緒方房子監修　長尾絵衣子　柳沢圭子　家本清美訳
明石書店　2004年8月　4725円
“シングル”イメージはどこから来たのか。メディアで創られてきた女性像をひもとき、アメリカシングル女性の歩みと虚構を探る。

〔平和・開発・エコロジー〕

『アムネスティ・レポート　世界の人権2004』
『アムネスティ・レポート　世界の人権』編集部編集
アムネスティ・インターナショナル日本発行
現代人文社・大学図書発売　2004年10月　3150円
わかりやすい。国ごとの報告の多様性に驚く。アムネスティの活動報告の2004年版。すべての国が、多様な人権問題を抱えている。その様には圧倒される。

『クルディスタンを訪ねて　トルコに暮らす国なき民』
松浦範子文・写真　新泉社　2004年3月　2415円
クルド民族は、トルコ・イラン・イラクなどに分断され、それぞれの国で差別されている。トルコに生きるクルドの人々を撮り続けた女性の写真家が書いた、クルドの人々との交流の記録。

『中国・シルクロードの女性と生活』
岩崎雅美編　東方出版　2004年8月　2100円
シルクロードに居住するウイグル族の女性の生活を服飾・食文化・住まいなどのテーマで考察。シルクロードと聞くと伝統的な生活を思い浮かべるが、高層ビルなどの近代的一面も持つ。カラー写真がイメージをよりふくらませる。

『人間開発報告書2004　この多様な世界で文化の自由を』
横田洋三　秋月弘子監修　国際協力出版会発行
古今書院発売　2004年10月　3990円

毎年出ている報告書。文化的差異（肌の色・宗教・言語）を認め、多文化政策を採用することで多様性を尊重し、包括的な社会を構築できると。

『バグダッド・バーニング　イラク女性の占領下日記』
リバーベンド著　リバーベンド・プロジェクト訳
アートン　2004年7月　1575円

女性・イラク人・24歳・バグダッド在住。わかっているのはこれだけ。その彼女が、Web上に2003年8月から日記を書き始めた。イラクで何が起こっているのか、人々はどんな暮らしをしているのか。意志と潔さを持った彼女の文章から真実のイラクが語られる。おすすめ。

『紛争下のジェンダーと民族　明石ライブラリー69 ナショナル・アイデンティティをこえて』
シンシア・コウバーン著　藤田真利子訳
明石書店　2004年10月　4725円
北アイルランド・イスラエル・ボスニアの困難な活動に携わる女性たち、女性グループを取材し、女性とジェンダーの国家との関係、フェミニズムとナショナリズムの関係を探った。熱烈に平和を求めるフェミニストの力作。

『よみがえれいのちの川よ　環境問題の未来⑤』
天野礼子著　旬報社　2004年8月　987円
長良川河口堰反対運動やダム撤去などを訴え、大好きな釣

りができる川復活に奔走中の著者へのインタビュー。身近な気づきから環境問題に取り組んだ軌跡がわかる。

〔資料〕

『家庭科で育つ子どもたちの力 家庭生活についての全国調査から』
日本家庭科教育学会編　明治図書　2004年7月　1953円
家庭科での学習効果を検証。

『現代女性ミニ事典』
マーゴ・マクルーン　アリス・シーゲル著　小西万紀子他訳
松柏社　2004年7月　1890円
「女性に関する情報提供本」と銘うって、「身体と心」「デートと結婚」などの項目立てで、各国女性の様子を解説している。が、「日本の女性はこんなんではない」という記述が目立つ。「欧米ではこうみられている」という解釈であえて訳出したと監修者は言うが……。

『女子大生・OLの職業意識・日中比較』
川久保美智子著　かんぽう　2004年7月　1890円
経済発展の目覚しい中国と平成不況が続く日本の職業意識をアンケート調査。社会的背景の違いがはっきり表われ、興味深い。

『女性情報ライブラリーVol.5　Women's Yearbook 2004　女たちの1年』
パド・ウィメンズ・オフィス編
パド・ウィメンズ・オフィス　2004年4月　1050円
2003年の女性情報を新聞・情報誌から切り抜き、各テーマごとにわかりやすくまとめた資料。

『世界女性人名事典　歴史の中の女性たち』
世界女性人名事典編集委員会編
日外アソシエーツ発行
紀伊國屋書店発売　2004年10月　16800円
米国・欧州・アジア・アフリカなど外国人女性の簡略伝記。ジャンルは、幅広く、神話から近現代の芸術家・スポーツ選手まで。

〔雑誌〕

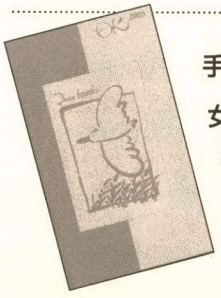
『アディクションと家族　Vol.21 No.2』
家族機能研究所編
IFF出版部ヘルスワーク協会　2004年8月　1680円
特集：少子化

『共同参画21　No.13』
内閣府編　ぎょうせい　2004年7月　600円
特集：女性に対する暴力についての取り組むべき課題とその対策

『共同参画21　NO.14』
内閣府編　ぎょうせい　2004年9月　600円
特集1：男女共同参画社会の将来像
特集2：女性のチャレンジ賞・支援賞について

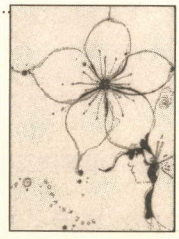
今年もでました

カレンダー
女の暦2005『姉妹たちよ』
女の暦編集室
ジョジョ企画発行
1600円
今年もそろった12人の女たち



手帳
女の手帖2005
『OKノート　2005』
ジョジョ企画編集・発行　1575円

手帳
『WOMAN　2005』
Women's Diary Project 発行・発売
1575円



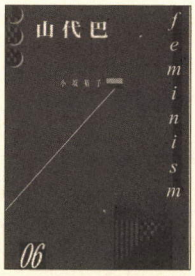
追悼

『山代巴　中国山地に女の沈黙を破って』
小坂裕子著　家族社　2004年7月　1575円

広島県北・布野村で辛苦を刻んだ日野イシの「心の虫」が、戦時の獄中抵抗者・山代巴の「一途な焔」と出会い、原水爆禁止百万人署名成功の道筋で、代表作『荷車の歌』は生まれた。作家・山代巴は、数々の作品を「呼び水」にして沈黙の底から女たちの言葉を引き出し、ともに自立と連帯に向かう道を模索した人である。

『荷車の歌』から50年。山代の格闘はどこに着地し、何を積み残してきたのか。本書は、「私のフェミニズム」から山代の仕事と作品を読み解き、広島女性史の忘れられた水脈を掘り起こし、いまにつなぐ試みの、はじめの、しかし大きな一歩である。

その山代巴は、2004年11月7日、東京の病院で死去した。92歳だった。「新しい戦争の時代」といわれる今こそ、「被害と加害の連鎖」を断ち切るためにも、読みついでいきたい。



（家族社：高尾きくえ）

ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

「あなたとわたしと性」**71号** 夏のシンポジウムより「障害をもつ人びとの豊かな暮らしの支援」 性を語る会 2004年9月 315円

「いこ☆る」 **第2号** 働く女性の人権講座始まる！ 第1回 フェミニズムと労働運動／しらなきゃ損！いこ☆る労働相談
働く女性の人権センター いこ☆る編集局 2004年8月 315円

「季刊 i・MA」**第16号** ●乳房よ永遠なれ ●日本人の自己責任論
い・ま編集部 2004年10月 480円

「女たちの21世紀」 **No.39** 特集：静かな暴力－ジェンダーと人権から見るHIV/AIDS－
アジア女性資料センター 2004年7月 1260円

「女のためのクリニックニュース」 **No.232** 北京JAC全国シンポジウムで分科会をします・性教育はいま④／**No.233** 女のための健康支援センターいよいよ全開へ／**No.234** 「病気の受容とその後の生き方」講座に参加して
ウィメンズセンター大阪 2004年8・9・10月 420円

「おんなの叛逆」 **No.52** 特集：「なくそうDV」正念場 戦争加担
久野綾子 2004年8月 525円

「教育大阪 Vivo la Vita」**635号** 特集：不登校について考える／**636号** 特集：子どもの夢／**637号** 対談：歌手 スーザン・オズボーンさん (財)大阪市教育振興公社 2004年9・10・11月 350円

「教会と女性」 **第17集** どんな結婚式がいいかな？ 特集：「結婚式を見直す」聖研・講演・新しいモデルによる模擬結婚式台本
日本キリスト教団神奈川教区婦人委員会婦人問題小委員会・性差別問題特別委員会 2004年9月 525円

「くらしと教育をつなぐWe」 **126号** 特集：穏やかにつながりあってエンパワメント／**127号** 特集：バックラッシュを打ち負かせ！ フェミックス 2004年10・11月 680円

「Green Letter」 **VOL.35** インタビュー「大切にしたい人と人との間にあるまなざしを」聖マーガレット生涯教育研究所主任研究員 長尾文雄 大阪心のサポートセンター 2004年11月 525円

「月刊家族」 **222号** 特集："八月の春子さん"NO DU(劣化ウラン弾禁止)・ヒロシマの役割を語る／**223・224合併号** 特集：『山代巴－中国山地に女の沈黙を破って』出版記念会 樋口恵子さんを迎えて／**225号** 特集：マニラレポート－日本で働くこと、日本人男性と結婚することは『希望』。だから言いたいことがある。
家族社 2004年9・10・11月 315円

「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会 会報」**第10号** テレビコマーシャルコンテスト結果報告（01、02、03年）
コマーシャルの中の男女役割を問い直す会 2004年8月 1050円

「シネマ・ジャーナル」**Vol.62** ◎特集 シネマジャ的韓流 ◎香港電影金像奨レポート ◎イラン映画祭 テス企画 2004年8月 800円

「消費者情報」 **No.354** 特集：消費者基本法スタート！／**No.355** 特集：年金を知る・学ぶ
（財）関西消費者協会 2004年9・10月 500円

「職場の人権」 **第30号** パネルディスカッション―ホームレスとジョブレス 研究会「職場の人権」 2004年11月 840円

「女性としごと」 **NO.42**「職場の中心で平等を叫ぶために」－女性差別撤廃条約＆均等法の核心
労働大学出版センター 2004年10月 500円

「女性ライフサイクル研究」 **第14号** 特集：戦争とトラウマ
女性ライフサイクル（ＦＬＣ）研究所 2004年11月 1050円

「ひとりから」**第23号** 特集：この時代に…私の絶望と希望 絶望は天からの贈り物 編集室ふたりから 2004年9月 1050円

「ファイト・バック」 **Vol.59** ☆兵庫監禁・性暴力裁判高裁判決報告 ☆同判決－サバイバーからの手紙 ☆公開講座報告 均等法改正とセクシュアル・ハラスメント
性暴力を許さない女の会 2004年10月 525円

「フィフティ・ネット」 **VOL.8** ○「二大政党化」と女性議員の減少～衆議院選挙を振り返る～ ○「女性議員比率上昇の影響に関する調査」の報告書が出ます
NPO法人フィフティ・ネット 2004年8月 525円

「フェミニストカウンセリングニュース」 **No.43** いよいよ始動NPO 均等法改正セクハラ部会の活動を始めました
日本フェミニストカウンセリング学会 2004年8月 315円

「ふぇみん」 **2733号** ふぇみん第51回全国大会 戦争協力体制進む中で活動目標より具体的に／**2734** 8・15特集 再び始まる戦争の時代を問う／**2736** 米軍ヘリ墜落事故から1ヵ月 沖縄に危険な米軍基地はいらない／**2737** 東京都教委が見解と通知 なぜ「ジェンダー・フリーは使用しない」なのか／**2739** 資金面など課題の多い女性のスポーツ環境／**2740** 憲法24条の危機 自民党から見直し案が浮上「家族の重視」で何が変わるか
ふぇみん婦人民主クラブ 2004年8・9・10月 210円

「婦人通信」 **No.555** 世界へひろがる人身売買／**No.556** 首都・東京はいま…?! 異常な女性観ほか／**No.557** 虐待・DVを考える
日本婦人団体連合会 2004年9・10・11月 380円

「Voice」 **第148号** 9月14日戸籍続柄裁判控訴審第2回口頭弁論、裁判終了後、判決報告交流会・この裁判は『華氏911』である／**149号** 11月18日戸籍続柄裁判控訴審第3「回口頭弁論への傍聴をお願いします
なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2004年9・10月 210円

「VOICE OF WOMEN」**No.254** 仕事と家族生活の調和政策－日米比較・例会報告「学校へ行こう！」／**No.255** 2004年ヌエック報告／**No.256**「母性神話」に完敗・12月例会案内「美術館博物館の性別役割分業を考える」
日本女性学研究会 2004年9・10・11月 158円

「マイマイ族」 **第46号** 特集：女の変わり目 第2特集：娘の目から見た母の「女事情」 鈴木美和子 2004年11月 315円

「月刊むすぶ」 **No.402** ワタシたちが作り出す差別／**No.403** 食－長崎からの発信－／**No.404** フォーラム いよいよ沖縄の自然があぶない！ ロシナンテ社 2004年6・8・9月 840円

「れ組通信」**No.207** ○韓国テレビドラマの魅力○「女らしさ」の概念を超えていくために！／**No.208** ○結婚、出産、養育の「三権分立」○「ジェンダー・フリー・バッシング」を考える
れ組スタジオ・東京 2004年10・11月 525円

「わいふ」 **309号** 特集：私の出会ったいちばんいい男／**310号** 特集：親の目で見た「ゆとり」の教育
わいふ編集部 2004年7・9月620円

「女(わたし)のからだから」 **No.225** 連続学習会① 家族の資源化から、女性の資源化へ・少子化社会対策大綱を読む／**No.226** 学習会"中絶の利用について／**No.227** 学習会③「狙われるからだ・生命・中絶」
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2004/年8・9・10月 315円

＜単発もの＞

前号の価格訂正「日本NGOレポート2004 北京＋10に向けて」
JAWW（日本女性監視機構） 1050円 ＊英語版1575円

「連続講座 女性と地域活動 報告書」
LEO-NET 2004年7月 840円

「女性センターで働く人たちは 非常勤職が支える女性センター」
ぐるーぷ・わいわい 2004年3月 735円

「自分に自信を持つための心理学 第4版」
ウィメンズ・メンタルさぽーと大阪 2003年3月 683円

「ケアする人のケア ハンドブック 家族のケアを支える」
(財)たんぽぽの家 2004年3月 525円

「全国共通DVホットライン週間報告書（2003年10月6日～10月11日）」 NPO法人ネットワーク虹 2004年3月 525円

「女性議員比率上昇に関する影響調査～女性は違いをつくれるか～」
NPO法人フィフティ・ネット 2004年10月 1050円

「女性が経営する企業における「女性が働きやすい職場環境」に向けた取組について―メンターの視点から―」
NPO法人女性と仕事研究所 2004年8月 1050円

「マッドウィメン／日本～韓国のフェミニスト・フォトグラファー、パク・ヨンスクの仕事を起点に～」
NPO法人大阪アーツアポリア 2004年6月 1575円

「新版：DV解決支援マニュアル＝情報編＝」
夫・恋人からの暴力を考える会 2004年7月 1575円

「ワンダフルライフ－小西綾、99歳－」
ＧＥＮＴＥＮ 2004年9月 1260円

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

発刊しました！ 『女性学年報　25号』

日本女性学研究会　女性学年報編集委員会

2004年11月　1995円

特集は「役割としての「女」「男」—演じる・ずらす・抜け出す—」です。

女・男という区別は、社会のなかではたいてい、役割としてあらわれます。

目に見える性別は、実は単なる役割でしかないのではないでしょうか。

文学や映画、マンガ、ファッションにあらわれた、実は役割でしかない性別、そしてそれをわざと演じることによってずらし、抜け出す試みが、5本の論文によって、次々と紹介されます。

一方、小特集は「性暴力に立ち向かうために」と題し、2本の論文が、性にまつわる危険について、さまざまな立場を踏まえつつ論じます。

小特集では、今回とくべつに掲載された、編集委員の意見交換も必見です。

そして巻頭論文は、「アセクシュアル」に着目することによって、「女ふたりの関係性は、たとえどのように変化しようと恐れる必要はなく、親密であり続けることができるのだというメッセージ」を伝えます。是非ご一読ください。

出版します 「地図でみる世界の女性」

2005年2月刊行予定

翻訳家　原民子（翻訳家・本書翻訳）

明石書店　2100円

たとえば「国会議員の数において、女性が男性の数を上回っている国は世界中にどこにもない」という文章があったとする。一読して意味はわかる。しかし、実態を数値で知りたくなる。どこの国が一番女性の国会議員が多いのか。わが国は世界ではどうなのか。文章にグラフや表など数値が各国比較でついていると具体性がぐんと増す。さらにそれを一枚の世界地図に表したらどうだろうか。ジョニー・シーガーは地理学者だったため、そう考えた。そして40項目における、世界の女性の現状をひとめみてわかる本ができあがった。それが、本書である。世界地図を色分けして、見るだけで世界の女性のいまがわかる。

少女、いやもっと幼い女の子が売春させられている。”セックス・トレード”という項目をみると網の目のようにはりめぐらされた空路のような地図に眩暈を覚える。少女や幼女が荷物を運ぶように移動させられている。それは「ＨＩＶ/エイズ」の項や「男児選好」にリンクしていく。そのように40項目がリンクしてくる。依然として根強い女性差別を、ビジュアル世代の若い世代に伝えるのには最適のテキストである。生から死まで、美・スポーツから農業労働まで広く扱っているので、「ジェンダーとは」の入門書として使える。

原書の美しい色をそのまま活かし出版するので、ビジュアルに世界のジェンダー格差が理解できる。いくつかの項目の世界地図で、アフリカ大陸の何カ国が「データなし」の白色が悲しい。データもとれない悲惨なアフリカの現状に心痛む。男女共同参画という言葉さえない国が世界には多くあるのだと翻訳しながら、改めて痛感した。

新刊紹介

編集復刻版 性暴力問題資料集成

全25巻・別冊１

別冊＝解説（藤目ゆき）・総目次・索引（別冊のみ分売可）

揃定価＝本体60万円＋税

2004年7月刊行開始、06年刊行終了予定

不二出版

女性への性暴力の実態を明らかにするルポルタージュや反買売春運動のビラ・機関誌、政府・都道府県の買売春／性暴力調査や女性相談所の出したリーフレット・ポスター、教職員組合の反基地・反買売春運動の記録など、敗戦後1945年から60年までの性暴力・買売春に関する資料700点を収載。

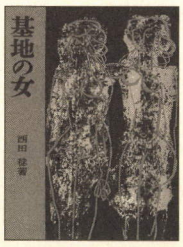
1945年8月。戦争に負けた日本政府が最初にしたことは、占領軍兵士向けに女性を募集し国内に「慰安所」をつくることだった。警察の肝いりでRAA協会という売春組織が立ち上げられ、接客婦募集を行ったのは敗戦から11日目、最初の買売春施設が東京の大森に開設したのはその翌日、という迅速さだった。

連合軍は、46年には日本の公娼制度の廃止を宣言した。しかし私娼と呼ばれる街娼そして警察が管理した「赤線」という名の新しい公娼制は、経済的困窮にあった女性たちを吸収して増え続け、女性の性を売買する動きは急速に再編成されていく。

いっぽう占領軍兵士によって多発した女性暴行事件や引き揚げ女性への性暴力など、外国人が日本人女性を強姦し買春することによって、女性への性暴力は近代以降初めて問題化された。

しかし、女性を貧困と性暴力被害にさらしながら、政府はあいかわらず性病と「国辱」の根源を売春女性にあるとして、取り締まりの対象としかみなさなかった。そして1956年、戦前の廃娼運動からつながる反買売春運動がようやく獲得した売春防止法もまた売春女性を処罰するという重大な欠陥を残したまま、現在に至っている。

買売春の形態が多様化・国際化・複雑化し、売春防止法の見直しや人身売買禁止法制定などの動きもある現在、女性への暴力・性の売買の問題について考えるすべての人にとって有用な資料集といえるだろう。　（不二出版　山本有紀乃）



ウィメンズブックス

WBからの風

『ウィメンズ　ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックストア 8・9・10月ベストセラーTOP 10

1	岩波新書　怒りの方法	辛淑玉	岩波書店 735円
2	岩波ブックレット　新　子どもの虐待	森田ゆり	岩波書店 609円
3	結婚帝国　女の岐れ道	上野千鶴子・信田さよ子	講談社 1785円
4	当事者主権	中西正司　上野千鶴子	岩波書店 735円
5	17歳。	小倉千加子	PHP研究所 1260円
6	知っていますか？スクール・セクシュアル・ハラスメント一問一答	亀井明子	解放出版社 1050円
7	かもがわブックレット143　なぜ男は暴力を選ぶのか	沼崎一郎	かもがわ出版 600円
8	賃金の崩壊と対抗戦略	女性労働問題研究会編	青木書店 1575円
9	アフガニスタン女性の闘い　自由と平和を求めて	アフガニスタン国際戦犯民衆法廷実行委員会編　訳	耕文社 1050円
10	愛する、愛される－デートDVをなくす・若者たちのレッスン7	アウェア・山口のり子	梨の木舎 1260円

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

入会は随時受け付けています。何月に入会されても年度内の「ウィメンズブックス」を全号お送りいたします。下記口座に会費をお振込みください。詳細は店舗または事務所にご連絡ください。

- 『ウィメンズブックス』を、年4回お届けします。
- 会員の方には、入金確認前でも本をお届けいたします。
- 「ウィメンズブックスクラブ」主催行事の参加費割引などもございます。
- 会員の方が関係されているミニコミ等を店舗で委託販売いたします。
- **年会費**（年度は4月から翌年3月・入会金は不要です）

個人会員　3000円
海外会員・団体会員　3800円

郵便振替口座　00900-5-309395

■ 原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。投稿は会員の方に限らせていただきます。たくさんのご投稿をお待ちしています。

〈原稿の受付先〉
ウィメンズブックストア ゆう まで、fax、メイルでお願いします。
次号の締め切りは 2005年1月20日です（発行予定日 2005年2月25日）

リスト書籍をご希望の方へ

書籍をご希望の方は、同封の振込用紙の通信欄に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込ください。FAXでのご注文は、FAX注文表でどうぞ。
下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。
HPのご注文欄やメイル・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。
※ 電話·FAX·お手紙でのご注文は「ウィメンズブックストア ゆう」にお申し付けください
電話 06-6910-8627　Fax 06-6910-6115
E－mail　wbs-yuu@m7.dion.ne.jp

〈送料〉
個人会員　書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料
書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は一律300円
海外会員・団体会員　別途請求をさせていただきます

会員の皆様向け送料、値下げしました！

ホームページリニューアル
URL　ネットショップ開始!!
http://www.womens-books.jp

メルマガ発信中
ご希望のみなさんに、月一回のメイルマガジンをお届けしています。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。登録は、メイルでウィメンズブックストアゆう　までどうぞ

■ 編集後記

◎書籍の出版には、流行のようなものがあります。最近の一例は、新5000円札に登場した樋口一葉。しかし、深く、重いテーマとしては、なんといっても、「戦争」でしょう。
◎ 新刊ピックアップで扱った『女性たちの戦争責任』（東京堂出版）は、15年戦争をめぐる女性たちの戦争責任の実相を分析し、日常的な生活の中から進む軍事化のありようを描きだしています。その視座は、4ページでご紹介した『フェミニズムで探る軍事化と国際政治』（御茶の水出版）のそれと共通するものがあります。かたや、著者インタビューで取り上げた『ジェンダーで読む日本政治』（有斐閣選書）の中には、15年戦争時の女性の姿が、また別の側面から登場します。そして、16ページでご紹介している『バクダッド・バーニング』（アートン）は、現在進行形の戦争の真っ只中にいる若い女性からの発信です。
◎ 「戦争」のテーマが“流行”する世相には悲しいものがあるとは思いつつ、しかし、それぞれの力作は読み応え充分です。
◎ 急速に冬の足音が近づいてくる昨今。みなさまは、いかがお過ごしですか。ウィメンズブックストアゆうでは、いよいよ、ネット販売を本格的に始めることになりました。サイト構築には難しいものがありますが、スタッフ一同、がんばっています。今後とも、ウィメンズブックストアゆう　をよろしくお願いいたします。　（編集長　森屋裕子）

店舗／ウィメンズブックストア　ゆう
〒540-0008　大阪市中央区大手前1-3-49　ドーンセンター1F
電話　06-6910-8627　FAX　06-6910-6115
E-mail　wbs-yuu@m7.dion.ne.jp
火～金：午前10時から午後7時
土・日・祝：午前11時から午後6時30分
月曜・第5日曜定休　祝日代休あり

オフィス／ウィメンズブックストア　ゆう
〒534-0025　大阪市都島区片町1-4-2　シャトーテル大手前317
電話　06-6355-7155　FAX　06-6355-7155

本誌からの無断転載・コピーはお断りします